

続・キャッチャーの仕事

右田俊介（春秋会）

毎年8月になると、工業所有権に係る事業所や特許庁の各部署を母体とする野球チームによる、「パテント杯争奪野球大会（以下、パテント杯）」というトーナメント戦がおこなわれています。今年で46回目を数える歴史のある大会であり、40を超えるチームが参加して覇を競っています。今大会の参加チームの内訳は、特許（法律）事務所や法人、弁理士会派などの事業所関係が27チーム、審査部や審判部などの特許庁関係が16チームでした。

日本弁理士クラブの所属会派を母体とする参加チームは、私の属する弁理士春秋会チームが唯一です。パテント杯は、野球を通じて参加チーム間、選手間の親睦を図ることを目的としますが、同じ会派に所属する他の弁理士との交流の場としても意義があります。ともに白球を追い、ミスのカバーし合い、そして勝利したときの充実感や一体感は、真剣勝負を通じてしか得られないものでしょう。

本稿では、そんな野球のうち、私がもっとも長く守ってきたポジションであるキャッチャーの守備に焦点をあてて、その特殊性を紹介したいと思います。本稿は、昨年版の日弁会報（No.32）に春秋会の米屋先生より寄稿された「キャッチャーの仕事」と題する会員だより（以下、正編）に対して、断りもなく書いた続編ではありますが、キャッチャー同志としてきつとお許しいただけることでしょう。

正編では、仕事その1～6として、「配球を考える」、「指示を出す」、「記憶する」、「ピッチャーの投げた球を受ける①、②」、「投げる」という重要な役割について紹介されています。以下、各役割を振り返って簡単に説明します。

「配球を考える」（仕事その1）とは、相手打者の仕草を観察して配球を組み立てることです。バッテ

リーを組む自軍投手の調子や、その試合の主審の癖（低め／高めやインコース／アウトコースの各ストライクゾーンの広さ等）も総合的に考慮して配球を組み立てます。とても頭を使う仕事です。

「指示を出す」（仕事その2）とは、自軍の守備位置を定位置から変更することです。足の速そうなランナーに対して牽制球を投げるように投手に指示することや、相手チームの送りバントを想定して内野手に特殊な守備隊形（バントシフト）を指示することなども含まれるでしょう。

「記憶する」（仕事その3）とは、過去の対戦成績を参考にして、配球を組み立てたり守備位置の変更を指示したりすることです。パテント杯の場合、参加チームの顔ぶれはおよそ毎年同じですので、特に強豪チームに関しては、前年度以前の対戦結果も覚えておくことが大切です。

「ピッチャーの投げた球を受ける」（仕事その4、5）とは、ストライクに見えるように自然な形で（自然をよそおって）うまく捕球したり、ワンバウンドの投球を身を挺して止めたりすることです。

「投げる」（仕事その6）とは、ランナーの盗塁を封じることです。投球を捕球してから送球するまでのボールの握り替えの時間を短縮することや、目的の塁上に正確に送球するコントロールも要求されます。また、盗塁を未然に防ぐ意味で、相手チームを「威嚇」することも重要です。実際に仕掛けられた盗塁を刺すことはなかなか容易ではありませんので、相手がそもそも盗塁を仕掛けてこないよう、キャッチャーは相手チームに対して強肩をアピールしておくことも重要なことです。具体的には、インニング開始前の投球練習の最後におこなう二塁送球を単なる練習と思わず、できるだけ低い軌道の“レーザービーム”を心がけます。たとえ傍目からは“山なり”に見えたとしても、気持ちは古田や城島です。

キャッチャーの仕事は、ほかにもまだまだあります。本稿では以下の二つを紹介したいと思います。

仕事その7 体を張ってホームベースを守る

グラウンドの中でレガース（脚用の防具）を着けているのはキャッチャーだけです。ピッチャーの速い投球から身を守る必要がある点でキャッチャーと共通する主審は、マスクとプロテクターのみを装備してレガースを着けていません。このことから分かるように、レガースは投球から身を守るための防具ではありません。レガースは、ホームベースめがけて全力でスライディングしてくるランナーを受け止め、また跳ね返すための防具です。キャッチャーは、本塁上でのクロスプレーではレガースを楯にして全身でランナーをブロックしなければなりません。

ブロックと一口に言っても、両脚でのブロック、左脚片脚でのブロック、ランナーに向かって身を投げ出すようなブロックなど、いくつかのパターンがあります。キャッチャーをかいくぐろうとするランナーの走路や、ランナーの体格（体重）、バックホームされる送球のタイミングなどによって臨機応変に対応します。プロ野球を観戦していて、「このキャッチャーはブロックが甘い」と感じるようでしたら、マニアを自認いただいて結構です。

仕事その8 一塁へのベースカバー

ランナーなしで相手打者に内野ゴロを打たせた場合、キャッチャーは打者走者に併走して一塁に向かって走ります。内野手からの送球を一塁手（場合によっては投手）が捕球し損なった場合に備えて一塁後方をカバーし、打者走者が二塁まで進んでしまうことを防ぐためです。なんと地味な仕事でしょうか。しかもキャッチャーはレガースやプロテクターを着けたまま走るのですから大変です。しかしながら、レベルの低いチームの場合、内野手の悪送球の回数が多いですから一塁カバーは重要です。逆にレベルの高いチームの場合も、打者走者の二塁進塁を易々と許してはなりませんので、やはり一塁カバーは重要になります。一塁カバーが功を奏することなど一試合の中で一回あるかどうかの頻度かもしれません

が、万が一に備えてキャッチャーは一塁を目指します。

キャッチャーは、唯一ファールグラウンドを守っている野手です。そして本塁周辺だけでなく、一塁後方のファールグラウンドまでがキャッチャーの守備範囲なのです。

最後に

本稿の執筆中の9月に、読売ジャイアンツの木村拓也内野手が捕手として10年ぶりに一軍の試合に出場するという小さな「事件」がありました。ベンチ入りしていた3人の捕手が途中交代や死球退場によって全員いなくなってしまったため、内野手登録の木村選手にお鉢が回ってきたのです。木村選手と言えばプロ野球を代表するユーティリティプレイヤーであり、また捕手としてプロ入りしたという経緯もあります。捕手というポジションの特殊性ゆえにニュースになりました。そして、フォークボールを難なくキャッチしたり、配球の組み立ても自らおこなったりと見事なプレーを披露し、試合後のコメントも印象的でした。本業ではない捕手のポジションで出場したことについて、『こういう生き方をしてきて良かったなど。それが生きた。こういう時のために若いときからやってきた。』と答えています。

来るべき局面に備えて守備位置の指示を出し、万が一のために地味なベースカバーを繰り返すという、まさにキャッチャーの仕事に通じるコメントだと感じました。新聞紙面には『急造捕手』と書かれていましたが、彼の中では常にキャッチャーの準備ができていたのだと思います。野手ひとりひとりがキャッチャーの仕事を理解し実践したならば、きっと強いチームになることでしょう。

無理やりなこじつけをするならば、キャッチャーの仕事というのは私達の日常の業務そのものです。クライアントの特長を引き出すリードをし、メンバーに指示を出し、過去の事例を参照して戦術を練り、万が一に備えて様々な検討を重ねて論理を構築します。いつか業務を通じて木村選手のようなコメントを発することができるよう、本業にも日々精進したいと改めて思いました。

日頃の行い？

伊藤 公一（春秋会）

一昨年のことになるが、この年には一年に3回飛行機を利用する機会があった。1回は、私の所属する事務所が参加させてくれた欧州事務所での研修のためにヨーロッパまで、その他の2回は旅行で台湾と北海道まで往復した。飛行機の利用回数が少ないということもあって、それまで私は、遅延や欠航といった事態に遭遇したことはなく、ニュースの中のみでの出来事だと考えていた。ところがその一年は遅延や欠航続きで、飛行機の運航の不安定さというものを実感したので、その体験について簡単にお話したい。

ドイツにて

ヨーロッパへ行った際は、イギリスとドイツを回り、最後はデュッセルドルフからフランクフルト経由で帰国する予定だった。帰国当日、デュッセルドルフでは雨が降っていたが、飛行機が欠航になってしまうほどの雨ではなかったため、搭乗開始の約2時間前に空港に到着した。そして、空港で驚くべき事実を知った。フランクフルト周辺が記録的な大雨で、私達（事務所の先輩の廣瀬弁理士と私）が乗る予定のフランクフルト行きの便が欠航になったというのである。それまで飛行機の遅延や欠航に遭遇したことのなかった私にとって、全く予想をしていない事態だった。

また、欠航の原因がフランクフルトの天候不良であったため、当然フランクフルト発成田行きの便も欠航になるであろうと考えていた。ところが、チケットカウンターで聞くと、フランクフルトの天候は回復傾向にあり、成田行きの便は運航予定だというのだ。私の中で不安が急激に広がっていった。

私の不安に対して、航空会社のチケットカウンターの係員はベストな回答を用意してくれた。今からICE（ドイツの高速鉄道）でフランクフルトに向かえば、成田行きの便の出発時刻ぎりぎりにはフランクフルトに到着可能であり、しかもフランクフル

ト空港ではほとんどの便が遅延していることから成田行きの便に間に合う可能性が高いというのだ。私達はその係員の指示に従ってICEで急いでフランクフルトに向かった。

フランクフルト空港に到着すると、デュッセルドルフの空港係員が言うようにほとんどの便が遅延していた。ところが信じられないことに、私達が乗る予定の成田行きの便は定刻通りの出発となっており、出発時刻の十数分前に空港に到着したときには既にチェックインカウンターは閉まっていた。このときばかりは、日本の航空会社の真面目さを恨んだ。

結局、フランクフルト空港のチケットカウンターに夜9時から5時間並んだ結果、成田行きの航空券を他の航空券に交換してもらうことができた（尚、欠航した便の航空会社と成田行きの便が別の航空会社なのに交換できたのは、航空会社同士が提携関係にあったことが関係あるのかもしれない。航空会社が今回のケースのように必ず補償してくれるかどうかは不明である）。ただし、翌日の直行便は全て満席だったため、チューリッヒ経由で帰国することになったが…。

今回の経験から、私は二つのことを学んだ。乗り継ぎがある場合、経由地の天候も調査しておく必要がある点と、飛行機は極めて天候に左右されやすい乗物であり、高速鉄道等の代替交通手段があり、所要時間が大きく変わらないような場合には、できるだけ安定している高速鉄道等他の交通手段を検討する必要があるという点である。

台湾にて

台湾では2泊3日の弾丸ツアーを執行し、おいしい料理を楽しんだ。そして帰国前夜、ホテルで何気なくテレビを見てみると、日本でも見たことのある台風マークが台湾本土を通過していた。中国語を聞き取ることはできないが、漢字から判断すると私が

乗る予定の成田行きの出発時刻に、台風が台北を直撃するようであった。

帰国日当日、朝早くホテルのフロントに成田行きの便は飛ぶのかどうか、そして飛ばない場合にはどのような代替手段があるかを尋ねてみたが、どちらについても明確な答えは得られなかった。そこで、成田行きの便は午後遅めの出発だったが、急遽午前中の予定をキャンセルし、空港へ向かった。

空港では、台風の予報を聞いた旅行者やビジネスマンでさぞや混雑しているだろうと予想していたが、意外にも空いていた。その時間帯のフライトは定刻通り出発していたからかもしれない。ところが、案内板を見てみると、私達の乗る予定の便は既に欠航が決まっていた。そこで私はチケットカウンターで航空券を早い時間帯のものに替えてもらえるように交渉してみた。すると、チケットカウンターの係員は簡単にその航空券を早い便の航空券へと替えてくれた。しかも、既に席が埋まっているため、ビジネスクラスにアップグレードしてくれることになるという。

そんなわけで私は台風のおかげでその日の午前中の予定をキャンセルする羽目にはなったものの、人生初のビジネスクラスでのフライトを楽しんで、無事に帰国することができた。台湾への台風直撃のニュースは日本でも報じられており、相当な被害がでた様子であった。飛行機を振り替えずに待っていたら、下手をすると次の日の便にも乗れなかったという危険性を考えると、早めに行動して良かったと思うばかりである。また、このとき良かったことは、たまたま航空券をいわゆる格安航空券にしていなかったことである。もし格安航空券であれば、事前に時間を早めての航空券交換はしてもらえなかったかもしれない。まさに不幸中の幸いであり、今後、台風等の天候の事情で欠航等になる可能性のある時期、地域へ行く際には格安航空券を使うのを控えるべきだと思った。

北海道にて

北海道では同じく2泊3日の弾丸ツアーでニセコでのスノーボードを楽しんだ。帰宅前日、ゲレンデは若干吹雪いており、悪天候ながらも新雪での滑走を楽しんでいた。帰宅日も午前中は滑走を楽しみ、午後には帰宅する予定だったが、大雪のためほとんど

のリフトが止まっており、滑走を止めて帰宅に備えることにした。ところが、止まっていたのはリフトだけではなく道路の封鎖によって新千歳空港までのバスも止まってしまっていた。

道路が封鎖されている以上、タクシー等の代替交通機関も当然利用不能であるため、早期の封鎖解除を願いつつホテルのロビーで待機していた。幸いなことに天候は回復傾向にあり、それに伴って道路の封鎖も解除された。そこで、最初に来た新千歳行きのバスに飛び乗って新千歳空港へ向かった。新千歳空港では、その日の午前中の便はほとんど全て欠航になっていたが、午後の便については運航を再開していた。ところが、羽田-新千歳間では同じ機体で一日に往復しているようであり、機体到着が遅れていることから出航も遅延していた。おかげで、たまにテレビで見る空港の大混雑を経験することになった。結局、3時間以上の遅延の末、なんとかその日中に飛んだのだが、私の乗った便よりも後の羽田行きの便は欠航になっていた。空港では翌日の便も既に満席だというアナウンスが流れていたため、私の乗った便以降の便に搭乗予定だった方々は翌々日の便への振替を余儀なくされていたはずである。私にとってぎりぎり欠航にならなかったことは不幸中の幸いであった。

以上の体験より思うこと

このように、一昨年飛行機搭乗では全て帰りの便が遅延・欠航するという事態に陥っており、飛行機の運航は極めて不安定であることを身をもって痛感した。私は飛行機に乗ること自体が好きであるが、その飛行機での旅を快適なものとするためには搭乗前から天候情報には注意を払い、危険がありそうな場合には早めに行動を起こすことが大切だと感じた。また、旅行であれば自分が痛い目をみればよいだけなのでまだ救われるものの、仕事の場合には様々な方に迷惑をかける可能性がある。このため、仕事で飛行機を利用するときには細心の注意を払うことが必要であり、予め新幹線等の高速交通機関を利用できる場合にはできるだけそちらを利用すべきだと感じた。

ただ、飛行機の欠航率は1%程度、15分以上の遅延率は十数%という統計もあるので、一番重要なのは、日頃の行いをよくしておくことなのかもしれない。



山の思ひ出

山口 現 (春秋会)

最近山に行くことが多く、この夏には富士山に一度ならず二度も登ってしまいました。なぜそんな物好きなことをするのかと聞かれることがありますが、これといった説得的な理由も見当たりませんが、そこに山があるから (Because it is there.) なんてお洒落なセリフも浮かんできません。そこで、山にまつわる自分の記憶を辿って、何が魅力なのか探してみようと思います。そして、皆様に山の楽しさが伝われば幸いです。

「丹沢の記憶」

皆さんは、初めて山に登ったときのことを覚えていますか。いつどこで誰と一緒にだったでしょうか。私が初めて山といえるようなところに登ったのは、思い起こせば子供の頃、父親に連れられて丹沢に行ったときだったように思います。丹沢は、神奈川県北西部に広がる山地で、私の生まれ育った土地からはその山並みを望むことができます。特に冬の晴れた日の朝は空気が澄んでいて、雪のかかった山々が輝いて美しい。今も、似たような景色に出会うと、懐かしい気持ちになって心が安らぎます。こういうのを心の原風景というのでしょうか。さて、そんな丹沢で初めて歩いたのは、丹沢表尾根縦走といわれるポピュラーなルートです。秦野市観光協会のホームページによれば「ヤビツ峠から塔ノ岳へ表尾根の展望を満喫」できる「表丹沢で眺望の一番良いといわれるコース」ということで、とても眺めが良く、シカの群れと出会ったりして、子供連れでも楽しめる良いところなのです。そこで、新緑や紅葉のシーズンに、皆さんも一度訪れてみてはいかがでしょうか、と無責任にお勧めすると、あとで文句を言われるかもしれません。というのも、実は、このコースは結構長くて時間がかかる大変なルートなのです。観光協会によれば「歩行距離約14.5km、歩行時間約5時間40分」とのこと。これだけではよく分からな

いので、先を読み進めると、「適度な上り下りをくり返し、鎖場もありますので、飽きの来ない登山ルート」とあります。ふむふむ、鎖場もあるのか、なかなか楽しそうなルートではないかと、乗り気にさせてくれる文章です。そんなノリノリ気分で現場に行くと、こんなつもりじゃなかったのという後悔の念が生まれますので、こういう説明文はひねくって読むに限ります。すると、あら不思議「何度も何度も飽きるくらい上り下りを繰り返す、鎖場という難所が追い討ちをかける登山ルート」と読めるではありませんか。このくらい警戒して覚悟を決めて行けば、案外楽チンで、景色ものんびり楽しめて良かったということになるはず。そういうわけで、ガイドブック等にあるルート説明は、意図的に曲解してみることをお勧めします。そうやって、山に行く前からあれこれ考えて想像を膨らませるのも、山の楽しみ方の一つなのです。

「登山靴のお話し」

初めて丹沢へ行った帰り道、小田急線の車内でちょっとした出来事がありました。凶暴化した酔っ払いが車内の誰かれ構わず絡みながら近付いてきたのです。そのとき、運の良いことに、父が履いていたのは昔ながらの重く頑丈な登山靴。ガチガチに硬いつま先を指して、「あいつが近付いてきたら、これで弁慶の泣きどころを蹴っ飛ばしてやるから大丈夫だ！」と言って私の不安を一掃してくれたのでした。昔の登山靴は、皮革製の重いものが主流。これさえあれば、20キロ超の重い荷物を担いでも安心、オールシーズン雪山だって大丈夫というものです。それに比べて、今の主流は、ポリウレタン製のミッドソールを使用したトレッキングシューズです。とても軽くて便利なのは良いのですが、ポリウレタンの加水分解によって、経年劣化する宿命にあります。そうすると、突然ミッドソールが粉碎し、靴底がパツ

カリと剥がれる事件が起こります。数年前に私の妻も同様の経験をして、テーピングテープで応急処置をした後、山小屋で売ってもらった運動靴に履き替えてその場をしのいだことがありました。日本スポーツ用品工業協会によれば、ポリウレタンを使用したトレッキングシューズの寿命は「製造後5年程度」だそうで、「使用の有無にかかわらず、長い間履いていない靴でも破壊が起こる場合があります。」とのこと。ということは、お店で新品の靴を買うときにも注意が必要です。お店の人が倉庫の奥からホコリをかぶった在庫を引っ張り出してきたときは、いつ仕入れた靴なのか聞いてみるのもいいでしょう。そして、一番大事なことは、一旦登山靴を買ったら押入れに眠らせないで、天寿を全うするまでどンドン山に行って使ってやることです。

「いざ富士山へ」

初めて丹沢へ行った翌年のこと、今度は小学校の遠足で富士登山を体験しました。しかし、これは五合目から六合目の間の中途半端な区間だったため、頂上まで行ってみたいという興味が湧き、翌年には頂上まで登りました。その後も毎年のように通い続け、ちゃんと数えたことはないのですが、これまで15回以上も登ってしまったようです。最初のうちは、五合目までバスで行ってそこから頂上まで往復するというガイドブックにも載っている一般的コースでしたが、それでは物足りなく感じたある年、麓から頂上まで全部歩くコースを試してみたところ、これが大正解。大きな収穫となりました。というのも、五合目から上に行ってしまうと、すぐに森林限界がやってきて、赤茶けた溶岩だらけの殺風景な景色になります。そんな中、ときには強い風雨、雷といった自然の脅威と戦いながら、ひたすら頂上だけを目指して登ることになるのです。かつて富士山信仰というのがあって、修行の一環として登山が行われていたというのも頷けます。それに比べて、五合目から下は緑あふれる世界です。木々の合間から降り注ぐ木漏れ日が優しく、鳥の声、土におい、コケの輝きなど自然の恵みを感じることができるのです。そういうわけで、五合目まではのんびり森林浴を満喫して英気を養ったら、五合目から上は修行モードで頂上を攻めるとというのが、私のお勧めです。特に良かったのは、精進湖から青木ガ原樹海の中を突っ

切る形で五合目まで通じる精進口登山道でした。途中には富士風穴という夏でも冷たく凍った洞窟があって、装備があれば探検もできます。仲間だけで(あるいは一人で)樹海の中を歩くのは不気味だという方も、最近ではガイドが案内するエコツアーというものが開かれているので参加してみてもいいでしょう。ところで、富士山には年間20万人もの登山客が訪れています。そこで、ごみ問題、トイレのし尿処理問題、車利用による大気汚染問題など多くの問題を抱え、世界遺産への登録もままならない状態になっています。この原因の一つは、五合目まで車で行く手軽さにあるのだらうと思います。日常生活の延長で簡単に頂上まで行けてしまうため、汚してはいけない神聖な場所という感覚が薄れてしまっているのかもしれない。そこで、私が提案したいのは、自動車道路を閉鎖して、麓から登る昔のやり方に戻すことです。富士の大自然を丸ごと肌で感じて、環境意識も高まることと思います。体力的に厳しくなるため、登山客は減少するでしょうが、それでいいのだと思います。富士山はいつまでも神秘的で美しく特別な存在でいてほしいですから。





テルミがくれた出産祝い

広瀬 幹規 (春秋会)

1. 怪しい小包

子供が産まれてから数ヶ月経ったある日、怪しい小包が届く。差出人は、テルミ。やっと来たか。テルミからは、数ヶ月前にメールがあった。「いやあ、お前に送ろうとしてた出産祝いだけども、別の友達も最近子供が産まれたもんだから、そっちにお前用の出産祝いを送っちゃった。同じの見ついたら、また送るわ」

テルミは昔からの親友で、もう幼稚園からの付き合いだろうか。なので、こういうメールのやりとりも平気で成り立つ(笑)。テルミからの出産祝いは、気になっていた。なんせ、テルミは独特のセンスの持ち主だからだ。うーん、独特のセンスというのだろうか、、、彼はただ相手が何が欲しいかではなく、自分が何を送りたいか、どうやって相手をびっくりさせたいかを常に考えているような男だ。結婚祝いするときもそうだった。彼からもらった結婚祝いは、「明和電機」¹⁾の作品の詰め合わせだった。

2. 開封

出産祝いは、色々なものをもらってきた。中には、娘が産まれたのに、子供用のグローブとバットを送って来て、「女性初のプロ野球選手を育ててくれ」とメールしてきた奴もいる。なので、どんな物が届こうが大して驚かないつもりだった。小包を破って開けてみると、中に入っていたのは、学習研究社の元祖付録付きマガジン「大人の科学マガジン vol.17」であった。そして、この号の付録は「テルミン」。テルミよ、、、自分の名前にひっかけて洒落のつもりか(笑)?しかし、予想外のものが出てきた。まさか、テルミンとは、、、

3. テルミンとは

「テルミン」という楽器があるのは、以前から聞いたことがあったし、妻が愛読している漫画「のだめカンタービレ」²⁾にも出てくるので、どういったものかはある程度は知っていた。ここで、インターネットで検索するのも億劫という人のために、簡単にテルミンについて説明しよう。

テルミンとは、ロシアの発明家レフ・セルゲーエヴィチ・テルミンが発明した『世界初』の電子楽器である。ご存知の通り、楽器の多くは、直接的あるいは間接的に楽器に触れることで音階を取って曲を奏できるようになっている。しかし、テルミンの最大の特徴は、一切楽器に触れることなく、空間にかざした手を動かすことによって、音程と音量を調節することにある。

4. テルミンの構造

テルミンの実際の構造は、どうなっているんだろう。テルミンは、2本のアンテナを備えた本体からなり、2本のアンテナが、本体から垂直方向、水平方向に延びている。アンテナの周囲には微弱な電磁場が形成されており、演奏者はアンテナに対し手を近づけたり遠ざけたりすることによりこれを干渉する。電磁場の変化は、本体内部の発振器に作用し、その結果、演奏者の動作により音程や音量の変化を導きだせるようになっている。なんか、ここまで書いていて、ふと気づいたのだが、構造とかを書いてみると明細書っぽくなってしまふ。このまま書き続けると、私の明細書の作成能力がばれてしまうので、このへんで構造の説明はやめておこう。

5. テルミンの組み立て

「大人の科学マガジン」は、家に届いてからしば

らく放置され、我が家の本棚の飾りと化していた。さすがに、親友「テルミ」が贈ってくれたものだし、組み立てることにした。しかし、よくできた付録である。テルミンの本体の内部に配置される電子回路基板は組み立て済みになっていて、組み立てがドライバ1本でできるようになっている。組み立てに取りかかってみたのだが、基板を本体に取り付けると、アンテナを本体に取り付けるのさえ上手くいけば、後は簡単だ。15分程で完成してしまった。

6. テルミンのチューニング

テルミンを組み立ててみたものの、はて、演奏の仕方がわからない。これもご親切に、大人の科学マガジンには、「テルミンの弾き方ブック」という小さな冊子まで付いていた。とにかく、冊子を見ながら、テルミンの音を出してみることにした。どうやら、テルミンは、まず「チューニング」をする必要があるらしい。

テルミンは、電子楽器であるが、演奏する人と楽器との距離、環境、気温によってテルミンの発音の基準が変動する。テルミンの発音の状態を標準の状態に合わせることを「チューニング」というらしい。冊子によると、具体的には、アンテナから20cmくらい離れたポイントに手を持っていったときに、音が発音しなくなるような状態に合わせると書いてある。このポイントを「ゼロポイント」といって、このポイントからアンテナに手を近づけて行くと、音が低い音から鳴り始めて、徐々に高い音に変化していくみたいだ。しかし、このチューニングをするのが難しい。さらに、ゼロポイントを探るために片方の手をずっと空中にかざした状態で、チューニングを行うので、腕がつりそうになる。

7. テルミンの演奏

チューニングも終わり、ひとまず、「ドレミ」の3音を出してみようと思う。一応、私も幼稚園から中学3年までエレクトーンをやっていたので、多分普通の人より音感はいいと思う（勝手な思い込み）。ドレミの音ぐらい判断できる。そう思って、まずドの音を出してみようと、アンテナに手を近づけてみ

るのだが、何となくドの音が出たと思っても手がその空間に固定できず揺れてしまうので、同じ音を出し続けるのが最初は難しい。しかも、次にレの音を出そうとしてもゆっくり手を動かすと、ドとレの間に音が入ってしまう。つまり、ある音からある音へ跳躍する際には、手を段階的に動かすことが求められる。しかも、次の音の位置を体で覚えていないといけない。かなりの反復練習がいるんじゃないだろうか。冊子には、初心者用として童謡「チューリップ」の楽譜が載っているが、チューリップすらもなかなか演奏できなかった。

8. テルミンの音

多分、この文章を読んでいる人は、テルミンが実際どんな音なのか想像がつかないだろう。テルミンの音は、そっけない電子音で、ブザー音に近いけど、もっとふわっとしてる感じです。言葉で表現しづらいですね。音域は、この付録のテルミンだと簡易版なのでかなり狭いんですが、実際はかなり広い範囲の音がでるようです。この雑誌によれば、お化け屋敷で流れるようなひゅ〜って甲高い音からコントラバスのような音までかなり広い範囲の音が出せるようです。

9. 本物を知る

あまりに自分でうまく演奏できないので、テルミンの「本物の音」が知りたくなった。自分での演奏は諦めて、動画サイトのYouTubeでテルミンの演奏を検索(笑)。意外とヒットすることに驚く。しかし、本物のテルミニストの演奏を聴くとやはり違う。音階から音階への移動がとてもスムーズで、しかも手を微妙に震わせてビブラートをつけることで、より表現力豊かな演奏となっていた。う〜ん、テルミンって奥が深い。

10. おわりに

今回、ひよんなきっかけでテルミンに触れることになったが、この楽器は、始めるのに非常に敷居が高いものだった。なんせ、楽器に触れずに音を出すという難しさだけでなく、音の高さを決める拠

り所は演奏者の耳にしか求めることができないからだ。しかし、それは裏を返せば、弾きこなしただけにもたらされる喜びは昨今の電子楽器では得難いものとなるかもしれない（自分はその喜びが得られなかったが）。今回、この文章を読んで少しでも興味を持たれた方は、ぜひとも大人の科学マガジンでも買ってみたいはいかがでしょうか。なんせ、市販されている本物のテルミンは8万~10万するようですから。2300円の雑誌で体験できるなら、安いもんでしょ？

- 1) 明和電機・・・土佐信道プロデュースによる、中小電機メーカーを模した芸術ユニット。魚器（なき）シリーズが有名。
- 2) のだめカンタービレ・・・二ノ宮知子による日本の漫画作品。クラシック音楽をテーマとしている。



写真1. 大人の科学マガジン



写真2. 組み立て前のテルミン



写真3. 完成したテルミン

司法修習

西村 公芳 (稲門弁理士クラブ)

いまや破綻の感が否めない法科大学院制度ですが、制度が始まった2004年当時は誰も現在のような状況を予言したりせず、私自身も、このような将来に思いを致すことなど一切ないまま、弁理士業務をストップして法科大学院に通い始めました。それから3年間の学校生活と司法試験と司法修習を経て、昨年末、弁護士登録と相成ったわけですが、弁護士業界も就職難だの何だのといろいろな意味で安泰ではないことがひしひしと分かりつつある今日この頃です。

さて、そんな先行き不透明な法曹養成制度ですが、今回はその一骨格をなす司法修習について紹介させていただきます。

現在、司法修習には、新司法試験（法科大学院を修了した人が受けられる試験で「新試」などと呼ばれています。）合格者用の1年タイプと、旧司法試験（従前からの試験で「旧試」などと呼ばれています。）合格者用の1年4か月タイプが併存しています。1年タイプの司法修習は、8か月の分野別実務修習と、2か月の選択型実務修習と、2か月の集合修習からなり、例えば私の場合、実務修習地が熊本でしたので、一昨年の11月から昨年の9月までは主に熊本で分野別実務修習と選択型実務修習、昨年の9月から11月までは埼玉県和光市にある司法研修所で集合修習というカリキュラムでした。分野別実務修習は、さらに各2か月の民事裁判修習、刑事裁判修習、検察修習、弁護修習に分かれます。

裁判修習では、地裁の民事部や刑事部の裁判官の部屋で事件記録を見たりレポートのようなものを書いたり、あるいは、期日（公判、弁論準備手続、公判前整理手続）の傍聴をしたりします。ちなみに、地方では地元の事件を地元の新聞や放送局がよく取り上げるので、公判を裁判官の隣で傍聴すると夜のニュースで裁判官と一緒にテレビに映ることもあり

ますし、ニュースの一つ一つが身近に感じられます。

検察修習は、地検の修習生用の部屋で事件記録を見たりもするのですが、時に取調べをして調書をつくり、次席検事や検事正（地方の検察庁で一番偉いのが検事正で、次に偉いのが次席検事です。）の決済を取りにいたり、司法解剖や刑務所の見学にいたり、捜査を生業としない人にとっては非日常的な経験をします。実際の取調べでカツ井は出てきませんし、広く明るい検事の部屋で行われる取調べはドラマなどのイメージとかなり異なると思います。

弁護修習は、弁護士事務所に居候して弁護士業務を見聞するというものです。熊本では職住近接、職住一体といった態様の事務所が珍しくなく、私がお世話になったのもそのようなタイプのアットホームな事務所でした。例えばお昼は事務所に隣接する先生のお宅にお邪魔して、犬と遊んだ後にテレビを観ながら奥様の手料理をご馳走になることが通常でしたし、ゴルフが得意な先生でしたので打ちっ放しに連れて行っていただいたり、カーペット敷きの事務所内で酒瓶をカップに見立ててパターの練習をさせていただいたり、疲れるでしょうからゆっくりして下さいと先生からしょっちゅう声をかけていただいたりと、そんな感じでした。事件としては一般民事と呼ばれるものから倒産事件まで様々あり、事務所としては忙しかったはずですが、のどかさというか大らかさというか、そうした雰囲気や基調にある居心地のよさというのは、先生のお人柄と地域の特性が相俟って醸成されていたと感じます。

選択型実務修習は、全国プログラム又は各実務修習地のプログラムとして用意されている修習メニューの中からいくつかを選択し、週替わりのような周期でいろいろ体験するというものです。個人的には、東京地裁知財部・知財高裁修習、市役所修習、公認

会計士・税理士事務所修習、司法書士事務所修習などを選択しました。

集合修習は、弁理士試験の論文答練を重くしたような「起案」というものを繰り返す修行のような修習です。集合修習の最後にはいわゆる二回試験があり、民事裁判、刑事裁判、検察、民事弁護、刑事弁護の各起案を丸一日ずつかけて行います。実務修習と集合修習を大過なく終え、この二回試験をパスすると、法曹資格を得ることができます。

司法修習の意義の一つは、社会や法律を多方向から眺めることができるという点にあると思います。

これに対し、新人研修を含め弁理士の研修は、特許庁や裁判所や特許事務所や企業その他に大掛かりな協力要請をして企画・運営されることがあまりなかったように思われます。弁理士の研修が、歴史と税金に裏打ちされた司法修習のいいところ取りを容易に行えないことは確かでしょうが、それでも、知財関連団体が協力し合って視野の広い人材の育成を図ることは重要ではないかというのが、司法修習を振り返っての一雑感です。

以上





知財協の委員会活動

綾木 健一郎 (稲門弁理士クラブ)

1、はじめに

先日、同友会の勉強会に参加したときのことで。勉強会のあとの懇親会にて、「知財協って、あちこちでイベントがあって何だか楽しそう。」「どんな活動をしているか知りたい。」というお話を伺いました。ここでいう知財協とは、知財協の委員会活動のことをいうのだと思い、自分が委員として参加している知的財産情報検索委員会（以下、情報検索委員会と略します。）の様子を少しだけ話をしましたが、皆様は興味深く聞いておられました。

上記より、知財協の委員会活動に参加し内情を知っている弁理士は、かなり希なのではないかと思われました。情報検索委員会には50名近い委員が参加していますが、弁理士は自分を含めて2名で、存在確率は4%です。知財協の委員会は全体で1000名弱ですので、弁理士の存在確率を4%と仮定すると、約40名の委員が弁理士と推定されます。弁理士登録者全体と比べると40名という人数は相対的に少なく、よって弁理士のなかには、知財協の委員会について良くご存知ない方が大多数と思います。よって、ここに知財協と、その委員会活動についてご紹介いたします。

2、知財協について

知財協は、正式名称を日本知的財産協会といいます。1938年（昭和13年）9月9日に設立され、最初は「重陽会」という名称でした。「日本知的財産協会」に改称されたのは、1994年（平成6年）のことです。現在の正会員は904名、賛助会員は294名です。

知財協の目的は、「本会は、知的財産に関する諸制度の適正な活用及び改善を図り、もって会員の経営に資するとともに、健全なる技術の進歩及び我が国の産業の発展に寄与することを目的とする。」と記載されています。

情報検索委員会のH理事長にお聞きしたところ、「元々は日本企業同士が係争を未然に防ぐ為、知財部の部長さんたちが顔見知りとなり懇親を深めること」が趣旨でした。その会合が段々と拡大してゆき、現在の知財協となったそうです。

3、委員会活動の概要

知財協には多くの委員会があります。2009年度の委員会を以下に列挙します。

- * 特許第1～2委員会
- * 国際第1～3委員会
- * バイオテクノロジー委員会
- * ソフトウェア委員会
- * デジタルコンテンツ委員会
- * 知的財産マネジメント第1～2委員会
- * 知的財産情報システム委員会
- * 知的財産情報検索委員会
- * ライセンス第1～2委員会
- * 意匠委員会
- * 商標委員会
- * フェアトレード委員会

自分が属している知的財産情報検索委員会は、第1～第3小委員会で構成され、それぞれ2つのワーキング・グループ（以下WG）に分かれております。そして、1つのWGは7～8人から構成されております。情報検索委員会の全体の人数は凡そ40～50名くらいです。昨年度は4つの小委員会で構成されていたのですが、不況によって委員の数が減少した為に、小委員会の数も3つにしたそうです。

4、委員会の公的な活動について

情報検索委員会の公的な活動は、知的財産に係る検索について、専門委員会による知的財産に関する調査研究報告（論文又は資料）を作成することです。

作成した研究報告は、知財管理誌に掲載するか、又はCD-ROMとして有償配布されます。

公的な活動をおこなう為に、原則として月に1回の委員会活動をおこないます。

情報検索委員会の全体で集まるのは、4月の発足と8月の夏季セミナーと10月の中間発表及び翌年3月の最終発表です。40~50名とかなりの人数ですので、ホテルや研修施設を使い、かつ宿泊を伴う会議となります。昨年度は熊本、安曇野及び香川のホテルや研修施設を使用しました。

それ以外の月は、小委員会(約16名)で集まります。小委員会の会合は、委員が所属する企業の会議室で行われます。委員は全国から参加されており、小委員会が関西や名古屋で開催されることも珍しくありません。原則として集合は13時30分で解散は17時です。各WGの事情により、午前10時30分に集合して午前中も何らかの会議を行う場合もありますし、定例の月1回の会議に加えて臨時会議を開催することもあります。

参加委員は、年に1回、小委員会のホスト役を担当します。ほかに年に2回ほど議事録を作成し、全体会の宿泊の手配なども担当します。

昨年度の小委員会活動では、自分は特許評価ツールベンダー様との調整役を引き受けました。何処のベンダー様も知財協の情報検索委員会の名前を出すと、それだけで依頼内容を快諾いただけました。特許評価ツールベンダー様には、知財協の委員会は著名な存在なのだと思います。

今年の小委員会の活動では、特許庁の審査官との意見交換会をおこないました。特許庁の審査の内情などを知る貴重な会議でした。

5、小委員会の雰囲気

小委員会は委員長と委員長補佐、及びその他の委員で構成されます。

知財協の委員会というのは、実に不思議な存在と思います。会社の命を受けて、参加しているにも関わらず、会社組織とは異質で、かつ平等な組織です。小委員長と委員の間は上下関係ではなく、纏め役と実行者という、立場の相違にすぎません。小委員長といえども、何ら強制力を有する訳ではありません。小委員会やWGは、参加する委員個人のボランティア

ア精神によって成り立っています。WGの宿題事項は、別に強制力がないにも関わらず、ほとんど全員が提出しています。

委員の知的レベルはかなり高いです。日本の名だたる企業の情報検索のエキスパート達が参加している為だ、と思われます。

社内の同僚同士の議論ですと、思考パターンが固定化してしまう傾向があります。しかし、他の企業の委員との議論では、新たな発想の示唆が得られる場合が多かったように思います。

知財協の委員は、原則として3年を超えては勤めることはできないそうです。すなわち、3年以内に退任するか、もしくは委員長や委員長補佐に昇格して、小委員会を運営する役割を担うことが求められます。また、委員長や委員長補佐に昇格したとしても一定の期間しか勤めることはできません。これによって、人員が固定化する事を防いでいるそうです。

6、小委員会の私的な面について

普通ならば関与する事が無い異業種企業に伺えるのが、委員会活動の良い点です。不二製油ではチョコレート工場を、日産自動車では銀座ショールームでスポーツカーを見させていただきました。

自由時間に、企業の「顔」とも言うべきショールームや展示などを見せていただくのも楽しみのひとつです。三菱重工のNさんにはロケットや潜水艇の展示をご案内戴き、大林組のKさんには風洞モデルのミニチュアなどを見せて戴き、花王のSさんには花王工場及び花王ミュージアムをご案内戴きました。この場を借りてお礼を申し上げます。

全体会や小委員会の後には、懇親会が開催されます。懇親会は自費参加で任意ですが、大変参加率は高く、8~9割の委員は参加していました。この懇親会で知り合いを増やす事と、各委員の人柄を知ることが重要です。

自分が幹事役を担当した今年の2月の懇親会は、六本木の香和(かぐわ)というショーレストランで開催しました。予想を超えるハイレベルなショーで、参加された委員の皆様楽しんでいただけたようで何よりでした。8,500円と少し高価ですが、接待などでお使いいただくには良いと思いますので、皆様にもお勧めいたします。



先生の思い出

生 富 成 一 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

幸せなことに、私はこれまでの人生で尊敬する人に数多く出会ってきた。弁理士や技術者のほか、発明者や審査官の中にも非常に尊敬している人がいる。また、異業種で創作活動をしている人、講演者などにも尊敬している人がいる。その中でも特にいつも心に思いながらも会うことができない昔の先生について、お話ししたいと思う。

2. 略歴

私は、京都府^{やわた}八幡市と大阪府^{ひらかた}枚方市の境界あたりで小学校から高校までの期間を過ごした。八幡市の西北部には^{おとこやま}男山と呼ばれる山があり、その山頂には^{いwashimizu}石清水八幡宮が鎮座している。山頂までの長い階段が有名で、徒然草にも登場する。毎年大晦日の真夜中には、初詣に向かう人々が、ゆっくりとこの階段を登っていく。私も小学生のころにはよくこの中に混じって初詣をした。また、中学生のころには、陸上部でこの階段を何度も上り下りする練習をしたこともある。

地元では、石清水八幡宮のすぐ側にエジソンの記念碑があることもよく知られている。男山では良質の竹が採れ、エジソンはこの竹をフィラメントに用いて世界初の電球を完成させている。



実家の最寄り駅は、京都府八幡市内の橋本駅であるが、家が所在する行政区は大阪府枚方市であったため、毎日片道30分以上歩いて、枚方市立の小学校に通った。そこで、私はT先生に出会った。

3. T先生

T先生は、大ベテランの女性の先生であった。厳しいことで知られ、私も相当怒られた。初めて見たのは、小学4年の時。他のクラスの担任であったT先生が、私の教室のうしろに貼り出されていた絵を見に来ていた。先生は、私が描いた絵の前で止まり「この絵が好きだ」と言ってくれた。そして、小5、小6の時、T先生が私の担任になった。

T先生にはとても^{えごひいき}依怙贖されたように思う。とはいっても単に優しくしてもらったわけではなく、よく話しかけてもらい、またよくひっぱたかれた。怒られた理由はほとんど覚えていないが、「いちびり」(ふざけてはしゃぎまわる人)だったので、うるさかったのかもしれない。「もうしないと、肝に銘じたか」「肝に銘じるって何?」「宿題や。調べてきなさい」といった会話をしたことを今でも鮮明に覚えている。当時、半ズボンを履いており、太ももが先生の手形に腫れ上がったまま、なかなか直らないこともあった。

一方、私が折り紙好きなのを見て、桃谷先生という折り紙の先生に紹介してもらったりもした。昔、桃谷先生のお子さんの担任をしたらしい。ちなみに、桃谷先生の本職は大学教授だが、折り紙の先生として非常に有名である。桃谷先生の折り紙は、実にすばらしく、恐竜の折り紙など、今でも大好きで時々折っている。



最近はどうか良く知らないが、当時の公立小学校では、体育と音楽を除くほとんど全ての科目を、担任の先生が一人で教えていた。T先生の国語の授業は大変面白かったが、社会科はつまらなかった。私は社会科が苦手で、いつも授業中に一人だけ歴史のマンガを読んでいた。他の児童が、「生富くんがマンガを読んでいます」と言ったとき、恐いので有名なT先生は、私を全く叱ることがなかった。社会科が苦手な私は、マンガで理解してよろしいという。そして、授業はいつも粛々と行われた。家庭訪問に際して、そのことにつき、T先生は私の親に、「生富くんが、社会を苦手に行っているのは、私（T先生）自身が、社会を教えることが苦手なためです」と言った。児童が授業中に自分の話を聞かずにマンガで勉強をしても、侮辱されたと思わず、全く怒ることもなく、児童にとって最も良いと思われる教育をしてくれたT先生。他にも、教育者としての強い自信がなければ、到底できない様々な指導をしていただいた。心から敬愛し、感謝をしている。

小学校を卒業して公立中学に進み、その後、公立の高校に合格したときに、突然T先生から家に電話があり、本当に嬉しい、良かった良かったと、祝福をうけた。卒業して30年以上たつが、今もご健在でおられるらしく、もう一度お会いしたいと思いつつも、どのようにして訪ねれば良いかよく分からないまま、現在に至っている。

4. S先生

S先生とは、高校1年のときに出会った。当時まだ現役のハンマー投げ選手で、大学を卒業してまもない体育の先生であった。その体はまるでスーパー

マンのようで、その後S先生ほど強そうな人にはあったことがない。先生は、陸上部の顧問も務めておられた。熱血漢で愛情に溢れ、S先生に教わると厳しい練習もどこか楽しかった。

入学してまもなく、同級生で先に陸上部に入っていたO君から、陸上部へのお誘いを受けた。S先生が、体育の時間に私の走りを観察して、もっと早くなるから入部するようにと言っていたという話だった。私は、陸上の練習の厳しさをよく知っていたため、しばらく迷っていたが、結局入部させてもらった。

練習は、その質も量も中学時代とは全く別物であった。非常に科学的な練習法でわかりやすかったが、一方で肉体の限界に挑戦するような内容でもあった。走り疲れて立ち上がれず、目も開かないほどの状態でグラウンドに倒れても、鬼のようになったS先生に「立て！」と叱られ、立ち上がっては引き続き300mのダッシュを繰り返したことを思い出す。

それほど練習はつらかったが、陸上は、当時の私にとって非常に大切なものであった。高校時代は、昼休みと放課後は勿論、学校の行き帰りと教室間の移動を含め、勉強と食事と睡眠時間以外は、ほとんど全て走りっぱなしで生活していた。

ところが、突然、私はその陸上を辞めた。理由は、「大学進学のため、勉学に専念する」というものであった。でも、これは本当の理由ではない。そうではなく、若い時分特有の複雑な感情で色々と思いつつ、やけになって辞めてしまったのだ。S先生にきつく叱られたことを根に持っていたということもある。当時は自分のために言ってくれたということも言葉では分かっているが受け入れることができなかった。S先生には何度も引き留められたが、結局2年の冬に陸上部を退部してしまった。

高3になり、勉強に専念しようとしたが、走りたくて全く集中することができなかった。ときおり、遠くから陸上部の練習を眺めていた。辞めた理由が自分でも情けなくて悲しかった。暇なので、生徒会活動に参加し、卒業アルバムには生徒会のメンバーとして写真が載った。陸上部のメンバーではなく、生徒会のメンバーとして掲載されたことが、また一

層悲しかった。数年後、S先生からOB会へのお誘いのはがきをいただいた。しかし、参加する勇気がなかった。S先生に謝罪して、もう一度走りたいことを伝えたかったが、その後二十年以上、機会はなかった。

時間が経つにつれ、陸上を辞めたことが私のトラウマとなり、思い出しては苦しんだ。どうしても、S先生やO君に会いたかった。近年、ネット検索によりO君の消息を探し当てることができ、ついに昨年夏、勇気を出して電話し、懐かしい声を聞くことができた。そして、O君からS先生が2、3年前にがんで亡くなったことを知らされた。関西の新聞に大きく載っており、それで知ったという。S先生は、その後ずっと高校生に陸上を教え続け、多くの生徒達に慕われていた。死後、教え子に対する熱心な指導をたたえ、現役死亡教員としては異例の教育委員会表彰がS先生に贈られている。

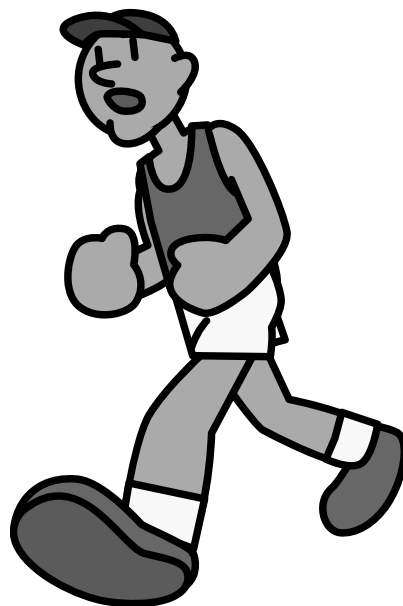
今春、20年ぶりに高校陸上部のOB総会が開かれ、私も誘っていただいた。涙無しに皆にお会いすることはできなかった。私も正式にOBとして登録してもらうことができ、再び陸上部のメンバーに戻ることができた。

平成21年8月、大阪にあるS先生のお墓参りを行い、昔お世話になったことを感謝するとともに、中途半端な状態で辞めてしまったことをお詫びした。このような形で、お詫びすることになり、残念であったが、一応の心の区切りはついた次第である。

5. 思い出に残る先生について書いてみたが、本当はもっともっと語りたいたことが山のようにあり、尽きることがない。

また、機会があれば、その他の尊敬する人についてもお話ししてみたい。

以上





ノミの心臓か、毛の生えた心臓か？

松橋 純裕 (稲門弁理士クラブ)

・健康診断で「要精密検査」の判定

これまで大病もなく、過去の健康診断でも特に問題があったことはなかったが、今年健康診断で、2つの項目に「要精密検査」の判定が出た。一つは眼科で「右視神経乳頭異常」、もう一つは肝機能系で総ビリルビンの数値が規定値を超えていた。健康診断結果別紙の「成績表の説明」によると、総ビリルビンとは「主に肝臓の疾患や胆汁の流出障害で上昇します」と記載されている。そういえば、最近、深酒した翌日の酒の抜けが以前より悪くなった気がしていた。35歳を過ぎて、アラフォー男性の仲間入りをした今、「ついにこれまでのツケが回ってきたか」とすぐに思い到った。

・インターネットで情報収集

とりあえず白黒をはっきりさせなければと、さっそく再診の予約をしようと思ったが、その前に、今回の診断結果から、どのような病気のリスクが想定されるのかをどうしても知りたくなり、インターネット検索で情報収集を試みた。

第一キーワード「視神経乳頭 異常」

視神経乳頭というのは、神経線維の束の先っぽのこと。そこに異常が見られるのは、緑内障のおそれがある。本当に緑内障かどうかは精密検査をしなければわからない。

「なるほど、緑内障の可能性があるようだ。しかし、もし緑内障だったら、何が起こるのか？」

第二キーワード「緑内障」

一般的な緑内障の症状は、視野障害である。早期に治療を行わないと、失明のおそれもある。

「視野障害？ 失明のおそれ？ これは穏やかじゃない。」

第三キーワード「総ビリルビン 高い」

ビリルビンとは胆汁に含まれている色素のこと

で、ビリルビンの数値が高いということは、肝臓から胆汁の排泄がうまくいっていないことを意味する。症状としては、目や皮膚が黄色く染まってくる、いわゆる黄疸が現れる。急性・慢性肝炎、肝硬変、胆石、すいがん等のおそれがある。

「こちらも、穏やかでない。」そういえば、1ヶ月くらい前、事務所に人に、「なんか顔色悪いですね」と言われたひと言が脳に鮮明に蘇ってきた。

・いざ、再診予約ー待ちきれない受診日！

インターネットによる情報収集の結果、すっかり肝を冷やしていたはずだったが、夏の飲み会シーズンの到来を直前にして、いまずぐに受診をしようかどうか躊躇していた。くだらないことだが、受診の結果、アルコールがNGとなって、飲み会をキャンセルしなければならなくなることに残念さを感じていたからだ。しかし、自分の身体より飲み会を優先したことで、「あー、あの時もう少し早く受診しておけば良かった」という後悔をすることになるのは情けなさすぎる。命に代わるものはないのだ。

そんなくだらない不安を振り払って、健康診断を受診した医療機関に再診予約のための電話をした。電話対応の女性は、明るく丁寧に應對してくれたが、内科と眼科の両方を受診するためには、早くても2ヶ月先になるとのこと。一応、仮予約をしたものの、気持ち的には、とても待ってられない状況だ。

そこで、以前受診したことのある総合病院へ電話をしたら、2週間後に受診できるとのことなので、すぐに予約を入れた。手帳に予約日を記入しながら、受診日の週末とその翌週末も飲み会の予定が入っていることを確認した。精密検査の結果によっては、この飲み会はキャンセルせざるを得ないだろう。くだらないと思いながらも、キャンセルを伝える時のセリフをかなり真剣に考えていた。

・受診日当日ーまずは内科から

受診の予約をしてから2週間が過ぎ、受診日当日を迎えた。この2週間の間もインターネット検索で

情報収集をしていたが、心理的にブルーになっているせいもあってか、ネガティブな情報は際限なく見つけることができ、不安な気持ちはより一層高まっていた。

受診は午後からだったので、午前中は通常どおりに仕事をこなし、事務所に半休の届けを出して、そそくさと病院へ向かった。まずは内科からだった。待合所で20分ほど待った頃、看護婦から、問診表の記入を指示された。来院目的や過去の病歴など、一般的な質問事項に答えるものであったが、最後に、ガンの告知方法についての質問があったのでちょっと面食らった。心がすでにネガティブ情報で埋め尽くされていたためか、この質問には結構、現実味があったのだ。家族の顔を思い浮かべながら数十秒考えたすえ、「本人に告知する」のチェックボックスに印をつけ、看護婦に問診表を渡した。

その後、ようやく診察室に入るように名前を呼ばれたのは、1時間ほど経ってからだった。総合病院の待ち時間が長いことは、ある程度覚悟していたが、ただ待つというのかなり疲れるものだ。診察室では、30代と思しき男性医師が明るく迎えてくれた。健康診断結果表を手渡し、医師の反応をうかがう。

「うーん、たぶん問題ないと思いますが、念のため、血液検査をしてみましようか」と気楽な感じ。医師の説明によると、肝機能障害によってビリルビンの数値が上がる場合は、 γ -GTPなどのその他の肝機能系の数値も一緒に上昇するが、私の場合、ビリルビン以外の数値には問題がない。おそらく体質的にもとからビリルビンの数値が高いのだろうとのこと。いずれにしても、血液検査により判断できるということなので、血液検査をお願いすることにした。

・採血した後、眼科へ移動

血液検査の結果が出るまでに、1時間30分ほどかかるということなので、その間に眼科へ向った。窓口で診察券を出すと、また問診表の記入を求められた。眼科なのでガン告知についての記載欄はなく、来院目的と過去の病歴を記入して窓口へ出した。受診が早く終わって、時間が余ったらどうしようかと考えていたが、そんな心配はまったく不要であった。問診表を出してから、30分経っても、40分経っても、まったく名前が呼ばれない。忘れられたか、とも思ったが、私に来る前からいる隣の老紳士も呼ばれていないし、前に座っている中年男性も確か私に来た時にはすでにいたはずだ。意外と眼科も時間がかかるものだと知った。1時間ほど経った頃、ようやく名前が呼ばれた。診察室へ入ると、看護婦さんが「先

生の診察の前に視力検査を行います。こちらに座って下さい」と言う。まだ、診察ではなかった。なんだか、お化け屋敷で恐々扉を入ったら、出口だった時のような、そんな気の抜けた感じがした。

様々な視力検査が実施された後、ようやく診察室に案内された。今度は、女医さんである。40代後半くらいであろうか、真面目そうだが無愛想である。こちらやや身構えながら、健康診断結果表を手渡し、反応をうかがった。「結論から言って、異常ありません」と、診断もそっけない。「ああ、そうですか」と、そのまま帰るのもあんまりなので、「何かの前兆ということがありますか？ 普段の生活で気をつけることはありませんか？」と聞いてみた。「大丈夫です。今までどおりの生活で問題ありません」とのこと。1時間半以上待たされて、診察自体はわずか5分。とりあえず、問題がなかったので喜ぶべきなのだが、ずいぶんと無駄な時間を費やしたものだ。

・血液検査の最終結果と、その後

さて、眼科の受診が無事に終わって、血液検査の結果だけが残っていた。再び内科へ向うと、待合所にはほとんど人が居ない。もう今日の受付時間は終了しているようだ。受付で後片付けをしていた看護婦さんに事情を説明すると、すぐに診察室に案内され、先ほどの男性医師が迎えてくれた。眼科の女医さんと違い、この医師は非常に明るい。こちらも気持ち明るくなる。医師は血液検査結果の用紙を広げながら、内容についての説明をしてくれた。「検査前に申し上げたとおり、問題ありません。ビリルビン値の上昇は、体質的な要因です」とのこと。結局、眼科も内科も問題なしであった。

「異常なし」との御墨付きをもらった私は、勇んで受診日の週末に開催された飲み会に参加した。飲み会には、久々に前職の仲間達が集まり、大いに盛り上がった。健康診断で再診を受けた話をしたところ、かつての上司が、「いつも要精密検査の判定だけど、一度も再診に言ったことがないぞ！ そんなの気にして、酒が飲めるか！」と自慢そうに言った。「すごいっすねー」「かっこいいですねー」と相槌を打ちながらも、再診が怖すぎて病院に行く勇気がないのだ、ということとその場のみんなが知っていた。私はノミの心臓の持ち主であることを自認しているが、この上司もかなりのものだ。

私のノミの心臓は、来年の健康診断のことを考えて、今からドキドキしている。



島んちゅ旅行 (マンスリーマンション編)

服部 秀一 (南甲弁理士クラブ)

(はじめに)

昨年の5月から6月にかけて沖縄でマンスリーマンションを借り、つかの間の沖縄人(島んちゅ)体験をしてきました。その当時、妻が妊娠中でしたが、以前から沖縄に長期滞在したいという願望もあり、計画することにしました。

(事前準備)

南甲弁理士クラブ釣り部所属の私としては、滞在中自分で釣った様々な沖縄の魚を自分でさばいて調理してみたいし、また妻としては、現地のスーパーや農産物直売所等で現地の野菜やフルーツを調達して自分で調理したいということもあって、宿泊先は、沖縄県北部の本部町にあるマンスリーマンションにしました。そのマンションには、手軽に長期滞在できるよう、パソコン・テレビ・ベッド・冷蔵庫・洗濯乾燥機・台所用品などの生活必需品がほとんど揃っており、専用の駐車場も付いていました。車は、滞在中レンタカーが借りられるよう手配しておき、また、最新の地元情報が入手できるように地方新聞(琉球新聞)の配達をお願いしておきました。

衣類・洗面道具・海水浴用品・子供のおもちゃ・釣具など、滞在中に必要と思われるものを、予め宅急便で宿泊先へ送っておき(結局なんだかんだで大きな段ボール4箱ほどになってしまいました)、すぐに使うものは、旅行用の大きなキャリーケースに入れて持っていくことにしました。

(初日)

那覇空港を出たらすぐ、予約したレンタカー店からの出迎えがあり、その出迎えにて那覇空港近くのレンタカー店に向かいました。レンタカー店では、レンタカーの他に、滞在中必要と思われるチャイル

ドシート・ベビーカー・クーラーボックス・ビーチテントを借りました。その後、沖縄本島南部から北部の宿泊先へ向い、その途中、名護市の大型スーパーで食料品等を買込むことにしました。夕食は、お湯で茹でるだけで済む琉球そば・島豆腐・バナナ・トマト・スイカなどすぐに食べられる地元食材を中心に買い込みました。

宿泊先(後、子供が「沖縄のお家」と命名)についたら、予め送っておいた荷物が部屋の真ん中にドスンと置いてあり、まずは大掛かりな荷ほどきが待ち受けていました。その間、妻と子供は部屋の中を探索して足りないものなどをチェックしたり、テレビの子供番組を新聞等でチェックしたりしており、もっぱら荷ほどきは私の作業となってしまいました(子供や妻に手伝わせるより早く終わるのですが…)。荷ほどきが終わったころには夕方近くになり、明後日乗船予約(私一人だけなのですが…)している釣具店に顔を出す約束をしていたのを忘れていたこともあり、結局夕食は外食となりました(自炊するはずが…)。

(3日目)

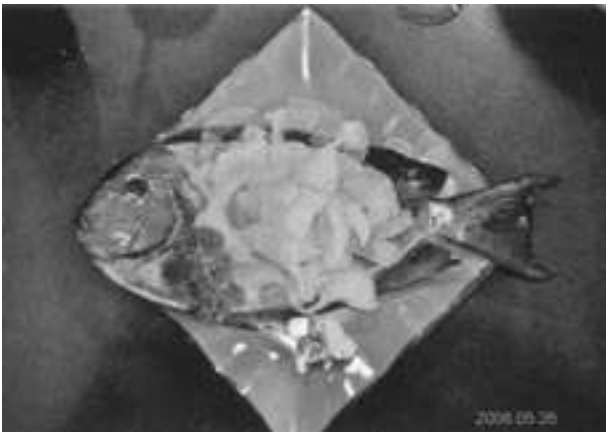
初日に、釣具店にて漁港に朝5時集合ということを知ったので、妻と子供が寝ているところを抜け出して漁港に向かいました。驚いたことに、同船者は、私以外すべて、「沖縄美ら海水族館」の海獣係・イルカ係・公報などに所属の魚釣り好きな職員の方々でした。魚釣りをしながら、水族館での仕事内容や苦労話をお聞きし、ある方には釣りたての魚(確か、ヤマトミジュンとか呼んでいました)を刺身にしてもらったりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。その日の釣果はそこそこで、グルクン(沖縄の県魚)が20匹程度と、その他もろもろとい

うところでした。

船を降りるときに、釣った魚を食べさせてくれるお店はないか船長に相談したところ、近くの居酒屋を紹介され、船長自らがその居酒屋に魚を持ち込み、私達家族が着いたらすぐに料理が出せるよう手配してくれるとのことをお願いすることにしました。

一方、私が釣りをしている間、妻と子供はその「沖縄美ら海水族館」に行って水族館めぐりや、水族館近くの公園で遊んだりしていたようです。沖縄のお家は、沖縄美ら海水族館がある「海洋博公園」の近くにあり、その海洋博公園内の停留所から専用の電気遊覧車に乗って水族館まで行ったそうです。

その日の夕食は、船長にお願いした居酒屋で、妻が妊娠中でお酒を飲めないことに付け込んで帰りの運転を妻に引き受けさせ、沖縄のお酒を堪能することを決め、自分で釣った魚の刺身や唐揚げ等を食べることができ、とても満足の夕食となりました（以後、この居酒屋には4度ほど行き、お店のブログに家族写真をUPして頂きました）。



（5日目）

今日は、初日に目を付けておいた名護市の農産物直売所へ行って、地元の農産物を買込むことにしました。そこでは、普通のバナナとは味も形も違う「島バナナ」や、もはや地域ブランドと言っても良い「今帰仁スイカ」などといった、様々な地元特産物が並んでおりました。また惣菜コーナーには、何から作られているかすら分からない様々な惣菜が並んでおり、あれもこれもと購入し、その日の夕食としました。

（11日目）

今日は、戌の日ということで、お腹の中の子の安産祈願のため、沖縄本島中部の宜野湾市にある普天間神宮へお参りすることにしました。沖縄には安産祈願を行う神社があまり無いらしく（そのような風習が余りないようです）、その中でも普天間神宮は、宿泊先マンションに比較的近く、そのマンションのオーナー夫婦（とても親切な方でした。）に教えて頂いた神社です。あいにくの雨の中の参拝となりましたが、境内で行うということでホッとしました。やはり風習が余りないだけあって、戌の日だということに安産祈願に来ている家族は私たちのみでしたが、受付をして10分ほど待ただけですぐにお祓いをして頂きました。その後、神主様からのお誘いがあり、普天間神宮の社殿裏にある普天間宮洞穴を見学させて頂きました。社殿の脇から入って300mほど歩いていくと大きな鍾乳洞となっており、案内して頂いた方によると、この洞穴には女神や仙人の伝説があり、沖縄貝塚時代の遺物が多数発掘されているとのこと、とても神秘的な場所でした。

（16日目）

今日は、本部町の漁港で行われるハーリー（竜神祭）に行くことにしました。ハーリーとは、海の安全や豊漁を願っての爬竜舟という舟で行うレースで、沖縄の旧暦5月4日「ユッカヌヒー」に行われるものだそうです。数名の漕ぎ手と1名の舵取りで、ドラの音に合わせてオールを漕ぎ、どの船がいち早く目的地に到着するかを競うもので、お世話になった釣船の方々が参加しており、あたかも一住民であるかのように、ハーリーを見ることができました。

その後の昼食は、地元の方お勧めの沖縄料理店にいったのですが、滞在して16日目ともなると、沖縄そば・ゴーヤチャンプルーなどといった沖縄料理には興味がなくなってしまい、沖縄料理とは何ら関係ないカツカレーや唐揚げなどを注文するようになってしまいました。



(最終日)

宿泊先の清算を前日に済ませておき、最終日は朝早く出発して那覇空港に向かいました。飛行機の中で子供が泣きじゃくるのを恐れ、お昼の時間帯の飛行機を予約しておき、また飛行機の中で寝てくれるよう、那覇空港内にある大きな子供用遊具で出発時間まで子供を遊ばせることにしました。苦勞の甲斐あって、飛行機の中でごはんをたべてすぐ子供が寝てくれ、何事もなく羽田空港に到着できました。

(最後に)

2歳の子供と妊婦を連れての家族旅行でしたが、ここでは書ききれなかった地元の子供たちやマンションオーナー家族との家族ぐるみの触れ合いなどがあり、また地元の方々に親しまれている名店や観光スポットなどを巡ることなどもできました。ホテルに宿泊しての旅行とは違い、地元の方々とより多く触れ合えた旅行だったと思います。滞在中は、魔の2歳とも言われる一番手が掛かる時期のわが子と、多くの時間接することができ、また妊娠5カ月の妻とも日常できないようなのんびりとした時間を過ごすことができ、とても有意義な時間だったと思います。

期限に追われる職業上、なかなか長期旅行ができませんと思いますが、そこを何とか時間を作って家族サービス（いや、自分サービス？）をしてはいかがでしょうか？

勝手気ままに書いた支離滅裂な文章で大変失礼いたしました。最後までお読み頂きありがとうございました。





東北の祭り

川村 武 (南甲弁理士クラブ)

今年の8月上旬に、夏休みを利用して秋田竿燈まつりを見に行きました。

秋田竿燈まつりは、仙台七夕まつりや青森ねぶた祭りとともに東北三大祭りの一つで、稲穂のように多数の提灯(ちょうちん)がぶら下げられた竹竿(竿燈)を額・腰・肩などにのせ、豊作を祈るお祭りです。この竿燈まつりは、秋田県の秋田市で毎年8月3日から6日に(曜日を問わず)開催されています。私は8月4日と5日に行きました。

8月4日(1日目)

秋田市までは秋田新幹線こまちを利用しました。東京から秋田までは通常なら約4時間で着くのですが、この日は線路故障が発生し、雫石駅と田沢湖駅の途中で1時間ぐらい停車したため、結局5時間程かかってしまいました。秋田駅に着いたのは午後1時ぐらいだったと思います。その後、駅前のホテルに荷物を置いて、早速、祭りの様子を見に行きました。

普段の秋田市内はそれほど人どおりが多くないのですが、さすがにお祭りの開催日であるため観光客と思われる人が多数いました。外国人の観光客も多かったです。竿燈まつりの本番は夜の7時からですが、昼の時間帯(10時から15時20頃)は昼竿燈と呼ばれる妙技会(竿燈の技のコンテスト)が千秋公園で開催されています。会場の千秋公園がホテルから近かったこともあり、それを見に行くことにしました。会場に着くと、妙技会に参加する団体の方や見物人の人だかりがあり、その人だかりの中心に竿燈の演技を行っている人(演技者、差し手)の姿が見えました。妙技会の内容は詳しく知りませんが、演技者が路上に描かれた円(サークル)の中で指定時間演技を行い、技の難易度や安定性などを競う競技のようでした。竿燈に下がっている提灯には妙技会に参加する団体のマークが印されていました。また、竿燈は大小さまざまなものがあり、大きなものは竿の長さが12メートルで提灯の数が46個、重さは50kg

になるそうです。

素人目でも、うまい人とそうでない人の差はある程度わかります。うまい人は、竿燈が安定しており技の移行もスムーズでしたが、うまい人は、竿燈が安定せずにふらふらして円の外に出てしまっていました。

実は、私は竿燈まつりを見るのは初めてでしたが竿燈自体を見るのは初めてではありませんでした。以前、秋田には何回か訪れたことがあり、初めて秋田に行ったときに「秋田市民俗芸能伝承館(通称:ねぶり流し館)」という所で竿燈の実技を見学し、実際に自分も竿燈を担ぐ(持つ)体験をしたことがあったからです。そのときの体験から、竿燈を単に手で持って安定させるだけでも難しく、大きな竿燈を額や腰などにのせるのは至難の業である、ということはわかっていましたので、うまい人の技を見て、素直に感動しました。

竿燈の技としては、流し、平手、額、肩、腰があるようです。また、竿燈の竿を途中で継ぎ足していき、高さを増していく演技もありました。竿を継ぎ足していくと、多数の提灯の重さで竿がしなっていく折れそうになります(実際、竿が折れてしまったのも見ました)。

しばらく妙技会を見学した後、千秋公園の中を見学しました。千秋公園は秋田市の中心に位置する、久保田城跡地に整備された小高い山の公園です。その後、竿燈まつりの本番の会場である竿燈大通りに向かいました。

竿燈大通りに着いたのは5時ごろだったと思います。その時刻では、まだ大通りの車の交通規制はされておらず、見物客も多くは集まっていませんでした。祭りの開始時刻まで時間がありましたので、大通りの近くで軽く食事をすることにしました。秋田には名物の特産品が多く、有名なものとして「きり

たんぼ」、「しょつつる鍋」、「稲庭うどん」、「いぶりがっこ」、「とんぶり」、などがあります。また、秋田は米どころであり酒どころです。お米では「あきたこまち」が有名で、お酒では「高清水」などが有名です。しかし、私は秋田の名物料理をほとんど食べたことがあり、時間の都合もあったため、このときは居酒屋で焼き鳥を食べました。

食事を済ませて店を出ると辺りは暗くなっていました。すでに竿燈まつりは始まっており、お祭りの会場に近付くにつれてお囃子の太鼓や笛の音が徐々に大きくなっていき気分が高揚していきました。会場はすごい人だかりで、多くの屋台が出ていました。さらに近付くと、火を灯した多数の提灯をぶら下げた竿燈が見えてきました。昼間に見た竿燈よりも美しく、数多くの竿燈が大通りを埋め尽くす光景は幻想的でした。祭りの本番に大通りに出てくる竿燈の数は約250もあるそうです。威勢よく太鼓や笛が鳴らされ、周りの見物客は「どっこいしょー、どっこいしょー」と掛声をかけます。私がイメージしていた東北のお祭りがそこにありました。私が見た限りでは、竿燈の差し手はすべて男性で、太鼓を叩いたり笛を吹いたりしている人は女性が多かったようです。

会場の大通の中央分離帯には観客席（有料）が設

置されており、竿燈の様子が見やすそうでした。ただし、観客席に行くと、その場から移動するのが困難であるので、自由に見学したい場合は、観客席でなく大通りの両端から見学の方がいいみたいです。お祭りを見学した後、近くの飲み屋街（川反）で軽く飲んでからホテルに戻りました。

8月5日（2日目）

次の日は、ホテルで朝食をとった後、秋田駅西口のアゴラ広場という場所で開催しているイベントを見に行きました。イベント会場では、竿燈の実演と地元の高校生による民謡劇を行っていました。観客は年配の方が多かったです。それをしばらく見てから、以前に行ったことのある郷土料理のお店に行って「稲庭うどん」を食べました。その後、市内の温泉（健康ランド）に行き、疲れを癒しました。それから、秋田駅を3時ごろに出発する新幹線で東京に帰りました。

秋田県は名産品も多く、全国でも有名な温泉地もあり、観光客に人気な場所であると思います。ただし、私の印象では、秋田の市内は特徴的な観光の名所があるわけではありませんので、お祭りを見に行くといった目的があった方が楽しめると思います。時間があれば残りの東北三大祭り（仙台七夕まつり・青森ねぶた祭り）も是非見に行きたいです。

以上





ステンドグラス

神 蔵 初夏子 (南甲弁理士クラブ)

弁理士になり早6年が経とうとしている。弁理士業務未経験者だった私は、弁理士試験に合格し、現事務所に入所してからは仕事を覚えるのに必死の毎日だった。また、担当しているクライアントの8、9割が外国企業であるためコレポンも8、9割は当然英語で書かなければならない。事務所の入所時の面接で「英語はできますか」と聞かれ「英語は好きです」という曖昧な回答で面接を潜り抜けてきた私は、英語でのコレポンをまともに書けるようにとビジネス英文レターの勉強もしなければならなかった。平日は家と事務所の往復だけでクタクタ。アフターファイブに習い事をする余裕もなく、休日も平日の疲れが残っていたためダラダラと過ごすことが多かった。しかし、仕事と家の往復だけの生活は疲れとストレスが溜まる。休んでいても疲れが取れず、脳みそがふつふつと煮えたぎったような状態になった。何かしなければ心身ともに危ういな、という焦りが出てくる。数年前はランニングに凝り？、同期合格の友人たちとハーフマラソンの大会に出たりとアクティブに過ごした時期があった。が、真面目にスポーツに取り組む友人たちとは違い、根っからの怠け者の私は仲間から脱落していった。引っ張られればついていくのだが、手を離された途端、情けないことに自分から走り出すことはなかった。無趣味な私は「何か趣味を作りたい。」と昔から思っていたが、長く続けられる趣味が見当たらず、ずるずると年月が過ぎていた。

そんなときだった。駅に置いてあるフリーペーパーでステンドグラスの特集が組まれているのを見た。外国の教会等の有名なステンドグラスの作品が紹介されていた。写真が素晴らしく綺麗だった。これを見たとき「これだー。あった、あったー。やっと見つけたね、おめでとう」と私の中で祝福の鐘が鳴

り響き花吹雪が舞った。ステンドグラスを趣味にしよう、とそのとき思った。ステンドグラスは美術館を見学した時や、古い家を改築した喫茶店や料理屋などでたまに見かける程度で、普段は馴染みがない。が、私の従姉妹が昔住んでいた家の風呂場のガラスの一つに赤い花のステンドグラスがはめ込まれていた。従姉妹一家の前の住人が外国の方で、そのような異国情緒漂う作りになっていたようである。私は小学生くらいであっただろうか、ほとんど初めて見た生のステンドグラスは美しく、感動した。たった一枚の小さなステンドグラスではあったが、幼心にとっても贅沢なものに見えた。そして「いつかステンドグラスのある家に住みたいな」と思ったことを思い出した。「そうだ、今から習えば死ぬまでには素敵なステンドグラスが一枚くらいは作れるかもしれない。」そう思い、その日のうちに事務所近くのステンドグラス教室を探し出し、早々に無料体験教室の申し込みをした。ステンドグラスの作り方も、仕組みも何も分からないまま、案内にある通りに軍手とエプロンと布巾とハサミだけを持って、体験教室に行った。何の予習もせずに教室に行くなど、本当に失礼な話だと思うが、ワクワクする気持だけを抱えて、何も考えずに教室へと向った。

体験教室では2時間ほどで壁掛けタイプの小さい鏡を作った。体験教室で作った小さな鏡は1つの正方形の鏡に4つの台形のガラスを囲んでつけるだけの簡単なものだったが、完成品は愛しくてたまらない宝物となった。体験教室の日に初心者コースに申し込むと安くなるというので、勢いに乗って月2回の初心者コースに申しこんだ。体験教室の帰り道は、早く誰かに作品を見せたくてウキウキしながら早歩きで帰った。家ではトイレに飾ってみたり、食卓に飾ってみたり、洗面所に飾ってみたりと、愛しい鏡

の置き場所を求めて狭い家の中を鏡を持ってグルグルグルグル歩き回った。

翌月から初心者コースの教室が始まった。初めは平面的で直線的なガラスを組み合わせる壁掛けを作る。ややパーツの多い、体験教室の作品よりは難易度が高い作品に挑戦する。ハンダの基本的な扱い方をマスターするためだ。その次は曲線的なガラスを組み合わせる花がモチーフとなった壁掛けだ。曲線にハンダを乗せる練習をするのだ。



そして長方形の底に、台形の側面を四つ、立ち上がるように付ける、やや立体的なペン皿と小皿を作った。立体的にハンダでガラスを固定する練習である。そして、花瓶、スタンド等の作品へと移行していく。8月は夏期講習で1日で星型のランプを作った。初心者の中には立体作品は難しく、6時間ほどかかった。



教室では私のような初心者から何年も教室に通っている上級者まで様々なレベルの人が一緒に習っている。私の通う曜日は毎回4人くらいの生徒が通い、初心者2名、上級者2名といった構成である。初心者コースではガラスは既にカットされた「作品キット」を使う。作品キットのガラスに自宅で銅テープを巻いて、教室ではハンダゴテでハンダを接着する作業をする。上級者は自分で作品のデザインをし、作品に合ったガラスを選び、デザインに沿って自分でガラスをカットする作業から始める。同じレベルの人だけで同じ物を作っていると、作業の早い遅いが速度が一目瞭然となってしまいうため、遅れないようにとプレッシャーがかかるが、各々に違うことをやっているのもその点気楽である。初めのうちは事あるごとに「先生～」と声をかけて手取り足取り教えていただいた。次第に作業の要領が分かってくると、黙々と作業を進めるようになる。端から見ると黙ってハンダを溶かしつけているという地味な作業なのだが、この黙って集中している時間がなかなかの充実感を与えてくれる。自宅で銅テープをガラスの縁に巻く作業が宿題となっているが、自宅で黙々と銅テープを巻くこの作業がなかなか楽しい。2年前に結婚をし、楽しいながらも100%自分だけに時間を費やすということが少なくなってきたため、この100%自分だけの趣味に費やす時間がとても貴重で贅沢に感じられるのだ。散らかったダイニングテーブルを片付け、古新聞を敷き、ガラス、銅テープ、銅テープを密着させるためのヘラ、ハサミを並べ始めた頃からウキウキとしてくる。つい集中しすぎて、あっという間に一時間ほど経ってしまう。腰が痛くなったり、肩が凝ったり、目が疲れてしまうこともあるが、銅テープの巻き上がったガラスを見たときの達成感もひとしおである。平日の夜に開催される教室に通っているため、その日の夕飯の準備は相方にお任せとなるのが少し申し訳ない気がするが、反面、家事から開放されて嬉しくもある。まだ、習い始めて8ヶ月ほどだが、どれくらい続くだろうか。



南甲東海の家族参加型懇親会 (バーベキュー大会)

中 島 正 博 (南甲弁理士クラブ)

1. はじめに

南甲弁理士クラブ東海支部(南甲東海)では、ここ数年、「家族参加型懇親会」と称したイベントを、ほぼ1年に1度の割合で開催しております。この「家族参加型懇親会」とは、「日頃、仕事に忙殺されている会員に家族サービスの機会を」とのコンセプト?の下に、南甲東海の幹事会(主に代表幹事、副代表幹事及び親睦担当幹事)にて企画されるものであり、これまでは食事会やボーリング大会等を開催してきましたが、本年度(平成21年度)は、8月22日(土)に(久しぶりの?)バーベキュー大会を開催いたしました。今回は、先日のバーベキュー大会について紹介させていただきます。

2. バーベキュー大会開催決定～開催前日

皆様もご存知?のように、昨年、南甲弁理士クラブは創立80周年を迎えました。これに併せて、南甲東海において家族参加OKの「南甲弁理士クラブ80周年記念東海支部パーティ」を開催したところ、会員及びご家族の方々を含めて総勢80名を超える多数の参加者がありました。これに味をしめた?本年度の南甲東海幹事会は、「80名とまではいかないまでも、出来るだけ多くの方が参加してくれるように」との思いを胸に、本年度の家族参加型懇親会の検討を開始しました。

とは言っても、簡単に事は進みません。家族参加型懇親会を始めた当初は30名を超える参加者がありましたが、ここ数年は10~20人程度と若干、参加人数も停滞気味であり、また、幹事の間で「ネタが尽きた」との思いが強かったからです。美味しいワインを持ち込んでの食事会は奥様方に好評ですが、子供達には面白くないだろうし、子供達を喜ばせる(ビックリさせる)為にマジシャンを呼んで、テーブル

マジックを披露してもらおうということも2年続いたし・・・という具合です。その一方、ここ数年の幹事会においては「バーベキュー大会はどうか?」という意見が挙がっていましたが、「用意が面倒」という意見が多く、採用されるに至らなかったという経緯がありました。色々な意見が出される中、「先ずは日程を決めよう」という話になり、南甲東海として一番暇?である8月中が好都合であると認識が一致し、お盆を避けた8月22日(土)に開催することが決定し、イベント内容については代表幹事、副代表幹事及び親睦担当幹事に一任されました。

その後、代表幹事、副代表幹事及び親睦担当幹事で話し合ったところ、「子供達は夏休みだし、とりあえずは一度、バーベキュー大会をやってみよう」という話で纏まりました(その他に企画が浮かばなかったというのが正直なところですが)。改めて調べてみたところ、事前の準備が不用な(食材等を全て準備してくれる)バーベキュー場が名古屋近郊に幾つかあり、後日の幹事会にて「愛知牧場」で行なうことが決定されました。

具体的な企画が決まれば、後は突き進むだけです。愛知牧場は私の自宅から比較的近いところにありますが、私自身、一度も行ったことが無いことから、先ずは下見に行き、その際に予約も行ないました。なお、この愛知牧場のバーベキュー場は、当地区では人気があるようで、早めの予約が必須のようです。そして、南甲東海の会員へ案内状を送付し、参加者を募りました。参加希望者の総数は21名と、我々の予想より若干、少ないものの、参加してくださる方々に少しでも楽しんでもらえるよう天候を気にしながら、バーベキュー大会当日を迎えました。

3. バーベキュー大会当日

当日は、午前中は少し曇り気味の天候でしたが、開始時刻である12時頃からは雲もきれて日差しも強くなり、次第に蒸し暑くなってきました（ビールが美味しく飲める状況になってきました）。

まずは「炭の火おこし」からです。私を含めた多くの参加者が「炭の火おこし」初体験であったため、それぞれのバーベキュー卓（テーブル）でちゃんと火がつくのか不安でしたが、アウトドア派？のM先生（Mくん）が参加していたため、各テーブルで無事に「炭の火おこし」が出来ました。なお、余談ですが、私の息子が爺ちゃん&婆ちゃん（私の両親）に「お父さんは上手く火をつけられなかったんだよ」と告げ口？したようで、家族の間で笑いものにされました。子供に「お父さん、凄い！！」と思わせるために、予めどこかで試しておけば良かったかなと思います。後の祭りです・・・。

無事に火おこしが済めば、後は肉やら野菜やらを焼いて食べるだけです。南甲東海代表幹事のT先生

の乾杯もそこそこに、各テーブルでバーベキューが始まりました。ビールについては、T先生の判断により樽生ビールを注文しましたが、徐々に蒸し暑くなっていったせいか消費量が予想以上に多く、途中で缶ビールを追加しました。主催者側としては子供達の火傷を一番心配していましたが、特に大きな問題もなく、楽しくバーベキューは進みました。子供達は、お腹が満たされるとじっとしてられないようで、近くの遊具で遊んだり、動物たちを見に行ったりと、元気にはしゃいでいました（会場として愛知牧場を選択して良かったと実感しました）。また、愛知牧場は、手作りジェラート&ソフトクリームが名物であり、はしゃぎ疲れた子供達&飲み疲れた？大人達は、揃ってジェラートやソフトクリームを食べていました。日頃、食べ過ぎを注意される私も、この日ばかりは大いに食べ、そして飲みました。

最後に、南甲東海支部長のN先生の挨拶、一本締めにて、バーベキュー大会は無事に終了いたしました。



4. 最後に

参加された皆さんが楽しそうにされていたのを拝見して、今回のバーベキュー大会は成功だったのかなと思います。来年度以降、家族参加型懇親会とし

てどのようなイベントが開催されるかは分かりませんが、日頃、室内で仕事をしている会員にとって、たまにはお天道様の下で食事をするのも、健康上、良いのかもしれない。

美術館とオーディオガイド

渡 邊 伸 一 (P A会)

私は子供の頃から割と絵が好きで、学生の頃は特にセザンヌやゴッホが大のお気に入りでした。大学の学部生時代に初めてパリの美術館巡りをしたときも、ルーヴルは半日ささっと眺めた程度で、すぐさまオルセー美術館に向かったものです。

ご承知のとおり、ルーヴル美術館はパリのほぼ中心、セーヌ川の右岸に位置し、ルーヴル宮殿の大部分を占める世界最大級の美術館です。古くは古代エジプト美術、ヘレニズム彫刻から中世・ルネサンス・バロック・ロココなどの近代以前の作品を多数収蔵しており、全ての作品を見るには少なくとも3日、人によっては1週間から10日はかかるという人もいます。ですので、半日見て回ったというのは、要はモナリザやミロのヴィーナスといった超有名な作品をざっと見たということに過ぎません。

一方、オルセー美術館はオルセー駅の鉄道駅舎兼ホテルを改装したという印象的なつくりの美術館であり、ルーヴルから見て対岸のセーヌ川左岸に位置しています。2月革命のあった1848年から第一次世界大戦が勃発した1914年までの作品が展示されており、印象派好きの多い日本人には特に人気の美術館かと思われれます。私もその例にもれず、モネの淡い色彩の中に見えるおぼろげな景色や、ゴッホの力強いヴィヴィッドな色彩を眺めては、純粋に綺麗だなと思っておりました。

このような私の印象派よりの嗜好は長く続き、一時ポンピドゥー・センター（オルセーより後の時代の作品を収蔵するパリ4区の近代美術館）に飾られているような現代アートにハマりかけた時期はあったものの、ゴッホの筆圧から受ける強烈な印象を超える作品に出会うことはありませんでした。

そして時は流れ、30代になったある夏、特に理由もなくオランダ・ベルギーに旅行に出かけました。

オランダといえば、かの巨匠ゴッホの生地であり、首都アムステルダムにはその作品を中心としたゴッホ美術館が建てられています。一応ゴッホ好きの私としては当然行かないわけにはいきません。行ってきた感想としては、この美術館では普段目にすることの多い鮮やかな晩年の作品に加えて、それとは全く印象の異なる暗い(しかも芋を食べている構図の)初期の作品も見ることができ、ゴッホの世界にさらに一步踏み込めた気がしました。しかし私は、図らずも、その近所にある、ついでにとでもいった感じで立ち寄ったアムステルダム国立美術館で、これまでまったくスルーしてきた絵画の未知の領域に気づくことになるのです。

アムステルダム国立美術館もまたルーヴルと同様、大きな美術館であり、訪れた際には、これもまたルーヴル同様、一部が改修のため閉鎖されていました。しかし、目玉とも言えるフェルメールやレンブラントの有名な作品は無事に見ることができ、とりあえずノルマは果たしたといった感じで、普段ならあとは適当に観て回るところだったのですが、このときは割と時間に余裕があり、ただブラブラしていても詰まらないということで、オーディオガイドの機械を借りてみることにしました。

このオーディオガイドなるもの、いったいつ頃から存在していたものなのか、おそらくそんな有料のオプションは自分には関係ないと長年無視していたのだと思うのですが、いざ利用してみると非常に役に立つものでした。これまでは、純粋に絵を見た印象から綺麗だとか、緻密だとか勝手に思っただけでしたが、オーディオガイドはその絵画の背景情報を本で調べずともその場ですぐに教えてくれます。おかげで、以前はまったく素通りしていた15世紀以前の宗教画にも興味をもてるようになりました。

以前の私の絵の見方からすると、ルネサンス以前の宗教画は遠近感もないし、人々は灰色の顔をしていて気持ち悪いし、その割に頭には妙に派手で金属的な輪っかが付いているしと、なにが良いのだからさっぱりわからん、といった感じでありました。しかし、オーディオガイドはそこに描かれているのが、どのような物語の中のどんなシーンなのかを丁寧に教えてくれます。そして、それを理解した上で絵を眺めてみると、不思議と親近感がわいてきました。特に開眼したのが聖人画です。私も聖書の内容は多少知っていましたが、十二使徒以降の聖人に関しては全く知識がありませんでした。絵画に描かれている聖人をみますと、彼らはいかにひどい拷問にあって瀕死になっています。信仰に忠実な生き方をしようとしたあまりに、まわりの人たちによって磔にされたり、火あぶりにされたり、歯をすべて引っこ抜かれたりという、非常に同情すべき、ものによっては目を背けたくなるような構図ではあるのですが、なぜ彼らがそんなひどい目にあっているのかをオーディオガイドのおかげで理解したその時の私の心中では、その絵に描かれている聖人とその物語を知るといって、新たな絵画の楽しみ方を見出した感動が勝ってしまったようでした。

その後訪れたベルギー王立美術館にも結構多くの

宗教画が収められており、中には十数人の聖人がキャンバスのあちこちで拷問にあっている、まさに聖人画の集大成といった大きな作品まで展示してありました（あいにく作者と表題は失念してしまいました）。作者がいったい何を思って、そのような絵を描いたのかはわからなかったのですが、オーディオガイドで聖人一人ひとりの運命に耳を傾け、彼らの生き様に遠く思いを馳せたのでした。

ちなみに、聖人の一部は特定の職業や活動、国、地域などと結びつけられて、その守護聖人とされています。拷問で歯をすべて引っこ抜かれた聖女アポロニアは、歯科医の守護聖人となっているそうです。

それにしても、美術館の絵について、こんなに様々な情報を教えてくれるオーディオガイドというものは、実に偉大な発明だと思います。オランダで借りた機械はまだ結構大きなものでしたが、最近はiPodで解説を聞けるようになっている所もあると聞きます。技術の進歩というものは本当に素晴らしいものですね。

いつかまたルーヴルを訪れたときには、以前モナリザを見に行く途中に何度も前を素通りした宗教画を（オーディオガイドを借りて）じっくり鑑賞したいと思っています。





スカッシュしたことがありますか

鈴木 大介 (PA会)

友人に誘われたのがきっかけで、昨年からスカッシュを始めた。面白くなってしまい、最近の週末は都合がつく限り練習会に参加している。

スカッシュ概要

スカッシュは2人で行う壁打ちテニスみたいなもので、四方を壁で囲まれた室内でプレイする。相手が打ったボールをノーバウンドかワンバウンドで打ち返し、前方のフロントウォールに当てれば有効打。フロントウォールに当てる前に左右の壁（サイドウォール）や後方の壁（バックウォール）に当ててもOK。

ラケットはテニスラケットに似ているが軽く、ボールもテニスのそれとは異なり、直径4センチの黒い小さなゴム製。このボールをまるでひっぱたくように打撃する。プレイヤーは相手の次のリターンを予測して移動し、わずかな間隔でストロークが繰り返され、息もつけないスピード感がある。運動量もテニスのそれを凌駕するほど高く、とてもハードなスポーツである。2人きりで試合でも繰り返せば、30分でヘトヘトになる。

スカッシュには陣地争いの要素があり、サイドウォール後方などのリターンしにくい所にボールを集めて相手を振り回す一方、なるべく自分はコート中央に陣取って楽にリターンするのがセオリーである。

ミクシイ

いまはソーシャルネットワーキングサービス「ミクシイ」の「スカッシュやろうよ!」というコミュニティの練習会に参加している。少々脱線するが、SNSの会員同士が毎週会っていると、互いに顔見知りになり練習後の飲み会でも談笑するのに、相手の本名を知らないという奇妙なことが起こる。自分

のハンドルネームは「ダイ」なのでダイさんと呼ばれるが、コミュニティ管理人のパラシューさん、ガーナさんなど、数ヶ月一緒にプレイして初めて本名を知った人もいる。

ミクシイ会員の方でスカッシュに興味がある方は、ぜひこのコミュニティを探してみてください。一緒にプレイしましょう。初心者でも、テニス経験があれば最初からかなり楽しめるし、全くラケットを握った経験がなくても、すぐに慣れます。

練習場所

練習会は大体、次の場所で行われている。

- ・ゆうぼうと世田谷レクセンター
(最寄：二子玉川駅)
- ・品川健康センター (最寄：新馬場駅)
- ・大田文化の森 (最寄：大森駅)

他にもコートがあるが、大抵は会員制のスポーツクラブの中にあり、それなりの入会料を支払って入会しないと使用できない。ビジターが楽しめるコートは、都内では上記の3つぐらいであろう。

これほど面白いスポーツだし、テニスに比べて場所もとらないし、天候にも左右されないのに、公共のコートが少ないのは残念なことである。2012年のロンドン五輪からの正式種目の候補にもなったが、見送られたそうである。

練習会の様子

練習会はだいたい土日に行われ、休日出勤の職場から駆けつける会員も少なくない。自分は、二子玉川の練習会の日には、住んでいる墨田区から、ラケットを入れたリュックを背負って自転車で行くことが多い。20kmぐらいのツーリングであり、これだけでもかなり運動になるので、会場が遠いのもわり

と気に入っている。

コートは左右いずれか1/2だけを使用し、フォアハンドまたはバックハンドで壁際のボールのリターンを練習する「ストレート」から始まり、コートの3/4、オールコート、と順番にプレイ範囲を広げていく練習が一般的のようである。

メンバーの力量は本当にまちまちで、初心者には一方のコートを使ってパラシューさんが優しく球出し練習してくれる。他方のコートでは達人たちが日頃のストレスを解消するかのごとく、力強いスイングでストロークを繰り返す。何であの壁際のタマが拾えるのだろう・・・。

二子玉川では午後3時から7時30分という長時間の練習なので、ぶっ続けにプレイできる人はいない。みんな休憩したり水分補給したりしながら、再びコートに戻る。遅刻も早退も全く自由。コート代は参加者全員でワリカン。

品川の練習会は日曜の午後に1時間しかできないので、時間が無駄にできない。遅れずに到着し、1時間、ほとんど休みなく、みっちり練習。

品川でときどき会う親子がいて、2人とも抜群に上手い。肝っ玉母ちゃん「紅の焼豚」さんと中学生の息子である。この間、母ちゃんにステップが滅茶苦茶だと指導された。見よう見真似でこれまでやってきたが限界かもしれない。どこかのスポーツクラ

ブでスカッシュのレッスンを受講することを考え始めている。

練習後はシャワーを浴びて、当然のごとく飲み会になる。これは大きな楽しみの1つなのだが、せっかくの運動の効果が損なわれてしまうので最近控え気味。

運動のモチベーション

ご多分にもれずメタボリックな体型になってきたので、40代を目前にしてスカッシュという継続的にできるスポーツに出会えたのはラッキーであった。水泳なども運動不足の解消に有効だろうが、一人黙々と行うスポーツを継続するには意思の強さが必要で、自分にはなかなか困難である。自転車通勤が継続できているのは、これをしないと仕事に行けないからである。

何でもいいと思うが、そのスポーツを好きな人々が集まって運動するのは最高に楽しい。飲み会は控えめにしないとまずいけど。

というわけで、最近運動不足を痛感している方はぜひご一報ください。一緒に汗を流しましょう。楽しいですよ～

以上



奄美大島皆既日食

中野圭二 (PA会)

1. 46年ぶりの皆既日食

今年(2009年)7月22日に、日本国内の陸地では46年ぶりとなる皆既日食がありました。陸地といっても、国内の陸地で皆既日食を見ることができるのは、奄美大島北部(南限)から屋久島・種子島南部(北限)にかけての島々(薩南諸島)と、硫黄島(一般人の上陸は不可)及び北硫黄島(無人島)のみというものでした。したがって、国内での観測を望む天文ファンは、奄美大島から種子島にかけての薩南諸島に大集結したのです。



1991年のメキシコ皆既日食
(今回もこのようなコロナを期待していました)

2. 日食に向けての準備

今回の日食が注目を集めたのは、皆既日食の継続時間が今世紀最長(6分37秒)だからでした。陸地で最も長く皆既日食を見ることができる場所は、一躍有名になった悪石島です。1分1秒でも長く皆既日食を見ることを考えれば悪石島が最も理想的な観測地ですが、アクセスや現地での滞在環境などから断念しました。一方、奄美大島は、皆既日食帯(皆既日食が見られる帯状の領域)の中では最大の島であり、アクセスがよいこと、日食以外にもダイビングや観光などを楽しむことができることから、観測地を奄美大島に決定しました。

さて、観測地も決まったので予約をしようと思ったら、な、なんと、宿は何処も満室ではないですか。

まだ、日食は1年近くも先だというのに。2~3年も前から一般向けは、予約で満室になっていたそうです。こうなると、旅行会社のバックツアーの売出しを待つしかないかと思いつつ、インターネットで検索していたら、岐阜のダイビングショップが「皆既日食を見る奄美大島ダイビングツアー」を企画しているのを発見!これぞ理想のツアーだと思い、早速連絡をとりましたが、宿と交通手段が確定したのは出発の直前でした。最悪、現地ダイビングサービスで雑魚寝になることも覚悟していましたが、運良く名瀬市街のホテルに泊まることができました。

3. いよいよ奄美大島へ

奄美大島ツアーの参加者は、ツアーを企画したダイビングショップのインストラクターと、アシスタント、このショップの常連さん、私達夫婦と、同じく横浜から飛び込み参加した女性(日食の1週間前に申し込んできたというツワモノ)の計6名でした。私以外は、皆既日食を見るのは初めての人ばかり。どちらかという、奄美大島の海の美しさに惹かれて、潜るためにやって来たのでした。

奄美大島は既に梅雨明けしており、真夏の空が広がっていました。初日は移動で疲れたので、すぐホテルに入って一休み。日食まで、あと3日。

2日目はボートに乗ってダイビングへ。海はベタ凧といきたいところですが、やや波立っています。梅雨前線が南下中とのこと(いやな予感が...)。それでも奄美の海は素晴らしく、巨大ナポレオンとも遭遇できました。日食まで、あと2日。

3日目は、島内観光をしながら南部のダイビングポイントへ向かいました。大島海峡で1本潜った後、次はニシキテグリ一点狙いで北部のポイントへ。北部には皆既日食ツアー用のテント村が多数あるため、南部と違ってにぎわっています。ニシキテグリは、

暗くなるとサンゴの間から出てきて姿を見せてくれるのですが、まだ明るかったからか、出てきてもすぐに隠れてしまいました。いよいよ、明日は日食当日です。

4. いよいよ日食当日

ついに日食当日の朝になりました。前日までの晴天がうそのように、空一面に薄雲が広がっています。天気図を見ると、皆既日食帯に沿って梅雨前線が南下しています。「こんな天気図見たことないよー」と言っても天気が好転するはずもなく、次第に雲が厚くなっていきました。本来は、ボートに乗って海上で日食を観測する計画でしたが、風が強く波もあること、どこまで行っても青空が見えそうにないことから、地上で観測することになりました。

日食が近づくとつれて、次第に雲が厚くなっていきます。それでも、部分日食が始まった頃は、日食グラスが必要なくらいに太陽が眩しく、「あっ、欠けている！」と皆さん口々に叫んでいました。



欠け始めの太陽
(薄雲の中でも、くっきり見えていました)

その後も天気が好転する気配はなく、さらに雲が厚くなり、サングラスでちょうど良く見える状況になってきました。そのまま、第2接触（皆既の始まり）の時間になりました。太陽の光はどんどん小さくなり、ついに消えてなくなりました。すると、「真っ暗だよ！太陽の欠片もないよ！」と妻の興奮した声が聞こえてきます。神秘的なコロナを見たことのない妻は、完全に消えてなくなった太陽に感動していたのです。

私は、雲に映った月の影（本影錐）を撮影するために、ビデオを空に向けました。島の南部では皆既日食にならないために、南の低い空は太陽の光が雲に当たって明るいままです。反対に皆既日食の中心

方向である北の空は真っ暗です。空を見上げると月の影の境界がはっきりと見えています。月は地球の周りを西から東に向かって回っていることから、月の影も西から東に向かって移動していきます。この月の影（本影錐）の移動がはっきり見られるのは、雲のお陰？です。



皆既日食の観測風景
(真っ暗で、誰だかわかりませんね)

そして、第3接触（皆既の終わり）の時間がやってきました。西の方から空が明るくなっていき、再び太陽の光が戻ってきました。「あっ、出てきた、出てきた。」と皆さん口々に叫んでいます。まだ、皆既中の興奮が続いているようです。

しかし、「お昼の準備ができたよ」の一声に、まだ続いている部分日食を見るのも忘れ、食事に夢中になってしまいます。日食の欠け始めは、僅かに欠けているだけでも夢中になって観測しますが、皆既日食が終わると、かなり欠けた状態の太陽でも興味がなくなってしまいます。こうして世紀の大日食は終わりを迎えました。

私は、3回目の皆既日食で初めて曇られてしまいましたが、コロナを見ることができなくても、ダイヤモンドリングを見ることができなくても、皆既日食帯の中にいることが重要だと、あらためて実感しました。朝のテレビ番組では、「本州は晴れているのにわざわざ遠くまで出かけた人は曇られてかわいそうだね」みたいなことを放送されていましたが、私は「部分日食で晴れていても全く羨ましくない」と一緒に行った仲間に話していました。妻を初め、日食初心者仲間たちも、そのことを実感したようです。

曇っても皆既日食！でも、コロナも見たい。この日の夕食では、次回日食の作戦会議が始まりました。

我が家のお魚天国

酒 井 雅 久 (PA会)

私は、結構動物が好きで、子供の頃から、是非、犬や猫を飼ってみたいと思っていました。しかし、家はずっとペット禁止のマンション住まいであり、あまり目立つ動物は飼うことができませんでした。そこで、我が家では昔から何らかの“魚”を飼っていました。魚だと水槽一つで飼えるため、なんとかスペースを捻出することはできますし、吼えたり騒いだりしませんので、隣人や管理人に怒られる心配は全くありません。ヘンな魚を選ばなければ飼育も手がかかりませんし、餌代も小学生のこずかいでまかなえる程度です。

今回は、私が今まで飼育してきた“魚”について、少々書かせていただこうと思います。とは言っても、わざわざ紹介するような珍しい魚を飼っていたわけではないのですが…

金魚

金魚は定番だと思います。家でも当然飼っていました。小学生のころ、地元のお祭りの金魚すくいでも5、6匹掬ってきたものですが、結構丈夫で長生きしました。種類はよく解りませんでした。和金や琉金っぽい雑種だったと思います（子供はそんなこと気にしません）。

飼いはじめた頃は物珍しさから、どちらが餌を与えるかで、弟とよく喧嘩をし、結局二人とも餌を与えるため、水は汚れるわ、金魚はすぐ大きくなるわ、で大変でした。やがて金魚鉢では収まらなくなり、45cm水槽、60cm水槽と、次々と水槽を替える羽目になりました。2、3年飼っていると20cm以上の大きさになるので、水槽の掃除が非常に大変だった記憶があります。掃除の時は、網ですくって一匹ずつバケツに移し変えるのですが、20センチの体軀で複数匹が逃げ回る為、水槽内は大騒ぎです。しかも、移し変える際には、ヒレで水面をバシャバシャして

くれるため、部屋中水浸しになり、閉口したものでした。結局、10年くらい飼っていたかと思いますが、金魚は入門編としてちょうど良かったですね。

フナ・ドジョウ

田舎の田んぼで捕まえてきた野生のフナとドジョウを飼っていたこともありました。

フナの方は大変でした。はじめは、前述の金魚と同じ水槽で飼っていたのですが、野生なので、気が荒く、自分の倍以上の大きさの金魚を追い回していました。ついには、金魚の片目を突き潰すという暴挙に出たため、別の水槽に退去させることになりました。部屋には他の水槽を置く場所がなかったので、外に水槽を置いていたのですが、真冬の凍りそうな水の中でも生き抜いて生命力の強さを見せつけてくれました。

一方、ドジョウは長さ30センチ、直径3センチくらいあるえらく立派なドジョウで、捕ったときはウナギかと思いました。本当にドジョウだったのかどうか、今となっては定かではありませんが、親がドジョウだと言っていたので、ドジョウだと思って飼っていました。こちらはフナと違って、おとなしすぎるくらいおとなしく、餌をやっても他の金魚などに食べられてしまうので、隔離して飼う必要がありました。しかし、環境の変化に耐えられなかったのか、結局すぐに死なせてしまい、かわいそうなことをしてしまいました。

熱帯魚

高校生になってからは熱帯魚を飼い始めました。それまで熱帯魚というと敷居が高いように思っていたのですが、最初の水質・温度調整をしっかりとすれば、意外と手がかからず、数種類の熱帯魚を

飼うことになりました。

最初は、親が、「ヴィクトリア湖産の貴重な魚」だと言って貰ってきたシクリッドという種類の魚を飼っていました。メタリックブルーの地に赤の入った非常に鮮やかな魚で、いかにも“熱帯魚”という感じでした。意外と丈夫で、あまり病気にもならず、私の魚飼育暦でもはじめて、卵を孵化させることに成功しました。正確に言うと、勝手に孵化していて、気がついたら稚魚が水槽内をたくさん泳いでいました。ところが、喜んでいたのも束の間、一晩置いてみると稚魚が一匹もいなくなってしまう、衝撃を受けました。どうやら他の魚に食べられてしまったようです！この魚は卵を産むと口の中で保護し、卵が孵化してからもしばらくは親が小魚を口の中に匿っているのですが、次に卵を産んでいるのを発見した時は、すぐにその親を他の魚と分けて万全の体勢を整えて臨みました。おかげで、2度目の産卵時には無事に稚魚を育てることができました。生まれてすぐの頃は、お腹に栄養の入った袋を抱えた全長3～4mmの姿なのですが、日に日に大きくなり、メダカくらいの大きさに育った稚魚が、30匹程で群になって泳ぐ姿は感慨深いものがありました。しかし、稚魚が成長していくにつれて、このままでは育てきれないことに気がつきました。成魚になると10cmくらいの大きさになるため、30匹も飼うことはとてもできません。いろいろ考えたあげく、近所のペットショップで引き取ってもらうことにしました。その後も何回か産卵・孵化させたので、結局100匹以上引き取ってもらいました。無事に育てられて、誰かに飼ってもらったのであれば良いのですが。

ちなみに、私が一番気に入っていた熱帯魚は、トランスルーセント・グラス・キャットという透明な魚です。「ガラス・ナマズ」の名の通り、骨や内臓以外はスケスケな、ガラス製かと思わせるような魚でとても綺麗です。性格も穏やかですし、喧嘩することもなく、群で泳がせると何時まで見ていても飽きません。残念ながら、現在、家には一匹もいませんが、いずれまた飼ってみたいと思っています。

プレコ

そして、今でも飼っているのが、プレコというナ

マズミみたいな魚です。こいつは口が下向きの吸盤のようになっていて、「水槽の表面に付着した藻やコケを食べてくれる」ということで飼い始めたのですが、だまされました。実際に水槽に入れても藻を食べるどころか、動こうともしません。あまりに働かないので「怠慢」という名前を付けました。しかし、実は夜行性で、夜はしっかり働いているらしいことが後で判明したのですが、名前をホイホイ変えるのは失礼なので(?)、いまでも「怠慢」と呼んでいます。もっとも、呼んでも反応するわけではありません。

家で飼っている「怠慢」は、マーブルセイルフィンプレコ(多分)という、背びれが船の帆(セイル)のような形をした種類で、主にアマゾンなどに生息しているようです。最初は5センチくらいのかわいい姿をしていたのですが、15年くらい飼っているうちに30センチ以上の大きさになりました。60cm水槽で飼っているため、このくらいの大きさが限界のようですが、成長できる環境であれば、もっと大きくなるそうです。15年も飼っているのに、全然飼い主に馴れた様子はなく、人が水槽に近づくとすぐに隠れるし、そのくせに毎晩餌の時間になると、餌の投下地点にしっかりスタンバイしているというマイペースなやつです。基本的に丈夫な種のように、先日、野生化して川の生態系を破壊しつつある魚だとTVで紹介されていました。TVに出ていた個体は全長50cmくらいありましたので、手におえなくなって捨てた人がいるのかもしれない。家の「怠慢」も健康そのもので、今まで病気になったり、食欲がなくなったりしたことはありません。ここまできたら見捨てる気はありませんので、このまま健康で水槽を占領し続けて欲しいと思っています。



(プレコ)



ネコの話

村上 晃 一（無名会）

ネコを飼うと人間が成長する

ことに、最近気が付きました。

ネコは、気に入らないことがあると悪さをするのでしょう。例えば、トイレの砂を換えずに放って置くと、きまって布団の上にオシッコをしていました。敢えてダメージの大きい布団の上に行っているとしか思えません。掛布団、敷布団だけでなく床のじゅうたんまで貫通する、劣化ウラン弾並みの悪質な攻撃です。

最初のころは、この攻撃にメシ抜きで報復していたのですが、このような場合、ネコは数日から1週間ほど帰ってこず、近所の人からエサをもらったり、ゴミを漁ったりしていたようです。帰ってきたときには、腐ったワカメの塊のようにっており、部屋の被害は更に増大します。

報復は報復を生むだけだと分かり、結局、トイレの砂を変えるようになりました。

ネコのせいで服をこまめにしまう

ようにもなりました。

うちのネコは、そのあたりに置いてある服やタオルの上でヨダレを垂らしながら寝ます。独り身のため、ただでさえ洗濯など死ぬほど面倒くさいのに、ネコのヨダレの後始末までやってられません。しょうがないので、服を片付けるようになりました。

そもそもネコは好きではない

のですが、行き掛かり上、今のネコを飼うはめになりました。

私は、つくば市でフリーターをしながら弁理士試

験を受けていたのですが、或る日、アパートの私の部屋に、栄養失調でガリガリのノラの子ネコが侵入してきて、目の前で、私の作った激辛ペペロンチーノの食べ残しをガツガツ食い始めました。よほど腹が減っていたのでしょうが、ネコがこんなものを食べるのも珍しいと思って見ていました。案の定、腹をピチピチ下してしまいました。

しょうがないので普通の食べ物を与えてやったら、そのまま居付いてしまいました。たしか、6年前の秋でした。

情が移る

とでも言えばよいのでしょうか。弁理士試験の最後の一番辛い一年間を乏しい食料を分け合って凌ぎきり、弁理士になって東京に引っ越したばかりで金欠のときに、なけなしの金を叩いて病院に連れて行ったりとしていると、もはや戦友のようでもあります。

3年前に今の事務所に転職した際、新しい事務所に自転車を通える距離にアパートを借りることにしました。ペット可の1階（ネコの出入りのため）で、生活用品が調達できる店が近くにあって10万円以下という条件で探した結果、条件を満たす物件は、新橋に1件しかありませんでした。半地下のような暗くて狭い部屋でしたが、否も応もなく決定です。ペット不可なら良い物件は幾らでもあったのですが。

まあ、結果として、新橋は私には合っているようで、楽しく暮らしています。新橋は、周りを汐留、銀座、日比谷、赤坂などに囲まれており、清流が流れる爽やかな草原のなかに、泥田が一枚ポツンとある感じです。ドジョウが田んぼから清流に出てゆかないように、私もなるべく新橋から外に出ないようにしています。

ネコの一掻きで8万円

が消えました。

今のアパートに引っ越したとき、ネコが壁を一箇所でも引っ掻いていたら、転出の際に壁の総張替のために8万円を請求すると、不動産屋に言われていました。ネコが壁を引っ掻かないように爪研ぎ用の板を置き、ネコが爪を研ぎたくなるようなじゅうたんを敷きました。しかし、引っ越して二日目に、バリバリという音で目を覚ますと、壁の一部がボロボロです。

既にかかなりの忍耐力が備わっていたので怒ることもなく、この日以降、壁の傷を気にする不安から開放され、却って楽になりました。

母は強し

というのは、ネコも同じです。

うちのネコは小さいときの栄養状態が悪かったためか、体が小さく、近所の大きなノラネコにしばしばエサを取られていました。私が部屋に帰ると知らない大きなネコがメシを食っていて、うちのネコは部屋の隅で小さくなっていることがよくありました。

うちのネコが、拾われた翌春に子どもを5匹出産したことがありました（父親不明）。うちのネコが生まれたての子ネコの世話をしていると、いつものように大きなノラネコがエサを横取りしに来たのですが、このときのネコは一味違っていました。子供の身に危険を感じたのでしょうか、大きなノラネコ相手に一步も引かず、相手を威嚇してついに撃退してしまいました。大したもんです。

ただ、このとき生まれた子ネコのうち、2匹は死に、3匹はどこかに行ってしまいました。受験生時代は金がなく、具合が悪くても医者に見せてやれず、バイトで看病もしてやれなかったため、2匹は見殺しの形になってしまいました。つくばの森の中に埋めてやりました。残りの3匹も、このシマでは食料が乏しく生きて行けないと思ったのか、どこかに行ってしまいました。金がないのは時として惨めなものです。可哀想なことをしてしまいました。

結局、いまでも私と住んでいるのは、最初に拾った一匹だけです。

我輩は猫である。名前はまだ無い。

というのは、うちのネコもそうです。

拾ってから6年経つのに、まだ名前がありません。そもそも、名前を付けようと思ったことがありません。ネコと二人きりだと、名前が必要になる場面がないからかもしれません。ただ、医者に連れてゆくとネコの名前が必要なので、適当に「タマ」だの「ミケ」だの偽名を使っています。最近の獣医さんはペットを大事に扱ってくれるようで、診察手帳には「村上タマ」とか「村上ミケ」と書かれています。ちょっとやりすぎの感もありますが。

ペットを飼うのは社会的存在として生きるための予行演習

になるかもしれません。

ネコを育てるのがこれだけ面倒なのだから、妻や子をまともに養い育てるのは数十倍も大変なのでしょう。家族もペットもちゃんと育てている人は尊敬に値します。私もいつか結婚ぐらいしたほうがよいのですが、せめてペット一匹がまともに育てられるようになってからのほうが無難かもしれません。

ちなみに、添付の写真は私のネコではなく、新しく買ったコンピュータに付いていたスクリーセイバーです。このぐらい可愛いネコなら貰い手は幾らでもありそうですが、ウチのネコのように不細工なのは、結局、最後まで私が飼うしかないようです。

以上





バスケットボールの魅力

丸山真幸（無名会）

☆はじめに

私が初めてバスケットボール（バスケ）という競技に出会ったのは、小学校6年生の時である。基本的に飽きっぽく物事が長続きしない私であるがこれだけは特別で、スポーツといえればこれ15年以上バスケばかりやっている。そこで、今回は自分のこれまでのささやかな競技人生を振り返り、バスケという球技の持つ魅力について語ってみたいと思う。もし興味のある方は、お付き合いいただければ幸いです。

☆バスケとの出会い

きっかけはささいなものであった。それまで一緒に遊んでいた友達グループが仲たがいで2つに分裂し、それぞれ別々に遊ぶことになった。片方のグループは昼休みにサッカーをし、もう片方はサッカーコートが使えないのでバスケをして遊んだ。私はサッカーの方が好きだったが、仲のいい友達が多かったバスケグループを選んだ。

体の小さい小学生にとっては、高いリングにボールを入れるだけでも一苦労だったが、繰り返し遊ぶうちにだんだんやり方を掴んでいった。全身をフルに使って走り回り、相手との瞬時の駆け引きに勝ち、早いテンポでシュートを次々と決めていく爽快感は、他の競技では味わえないものであった。

☆期待のバスケ部入部

小学生の時にバスケの魅力に取りつかれた私は、中学校に進学したらバスケ部に入部すると決めていた（よほど楽しみだったらしく、小学校の卒業文集にも中学でバスケ部に入りたいと書いてある）。ところが、私がバスケを始めた時期というのは、バスケ漫画の「スラムダンク」が爆発的に流行りだした頃であり、バスケブームの全盛期であった（余談だが、「スラムダンク」はバスケ経験者から見ても納得のクオリティを誇る青春スポーツ漫画の最高傑作である。小さいお子さんがいる方は是非読ませてあげ

てください。）入学した中学が中高一貫の男子校だったこともあり、バスケ部には入部希望者が殺到した。初練習に現れた新生は、全部で50人（一学年の生徒数の1/4）を超えていた。

☆下積みの日々

上級生を入れれば80人を超えるバスケ部員に対し、割り当てられた体育館のスペースはたったの1コート分である。バスケは5対5のスポーツなので、いくらなんでも人が多すぎである。練習ではボールにすら触らせてもらえず、体育館の外をひたすら走る日々が続いた。当時まだ社会の厳しさを知らなかった私は、子供ながらに理不尽な仕打ちを受けていると感じていたが、それでもバスケ部を辞める気は起こらなかった。

下っ端である一年生が唯一ボールに触れる時間が、始業前の自主練習であった。私達の代で一番やる気があったキャプテンは、毎朝4時に起き、始発電車に乗って6時前には体育館に来ていた。私はそこまで根性がなかったが、それでも6時に起き、7時過ぎには体育館にいた。放課後の練習と違って、ここでは楽しいシュート練習や1on1を好きにだけすることができた。月日が経つにつれ技術も少しずつ上達し、試合にもだんだん出られるようになっていった。中学最後の大会では新宿区大会で優勝し、都の本大会でも4回戦（ベスト16）まで勝ち進むことができた。

☆走って、走って、走れ！

高校に進学すると同時に、それまでの主力選手の半分が辞め、私は自動的にスターティングメンバー（最初に試合に出る5人）へと昇格した。また、顧問に体育大学出身の鬼コーチが就任し、中学時代にも増して厳しい練習を課せられることとなった。私達のチームは全体的に小柄な方で、能力的に飛び抜けた選手もいなかった。そのため、相手に勝つにはシュートの確率を高め、組織としてのディフェンス

力（守備力）を高め、その上で相手よりも多く走るしかなかった。放課後の練習時間の半分は、学校の裏手にある公園をひたすら走ることに費やされた。野球部よりも、サッカー部よりも、陸上部よりも、とにかくたくさんの量を走った。私の敬愛するオシム氏（前サッカー日本代表監督）は、身体能力に劣る日本人が海外の強豪に勝つために「考えて走るサッカー」を提唱した。私達の顧問がやろうとしたことも似たようなものであったと思うが、当時の私達は考える余裕もなく、ただただ馬車馬のように走らされていた。

どのスポーツでもそうだが、高校になると特待生待遇で能力の高い選手を集める学校が出てくる。そのため、私達のような普通の学校にとっては対外試合で勝つことが難しくなっていた。それでも高校最後の大会では、そのようなスポーツエリート校のうちの1つを倒し、最終的には都大会ベスト32まで駒を進めた。6年間かけて作り上げてきたチームの集大成であった。最後の試合が終わった後は感傷的になるまいと思っていたのだが、前述の頑張り屋さんのキャプテンが泣いているのを見て、思わずもらい泣きしてしまった。この中学・高校の部活時代を通じて培った力は、その後の私のバスケ人生を支える土台となった。

☆バスケを楽しむことを覚えた大学時代

大学でもバスケ部を選んだ私であったが、その体育会的なノリと膨大な練習量についていけないと感じ、わずか2週間で退部した。バスケは続けたかったため、知り合いのいたバスケサークル（同好会）に入会したのだが、結果的には大正解であった。体育会よりも人数が多く活気に溢れたサークルで、一癖あるが面白い仲間達と出会うことができた。彼らは練習嫌いではあったが、体育会にいたメンバーよりもバスケのセンスに優れ、何よりも非常に負けず嫌いであった。

サークルでは基礎練習はなくゲームをひたすら繰り返すのみで、指導をしてくれる顧問もいなかった。普通に考えたら高校時代より下手になってもおかしくないところだが、私の場合は逆であった。まず、部活時代はある程度型にはめたプレーを強制されていたのだが、大学ではそれらの制限がなく自由にプレーすることができた。また、教えてくれる人がいない分、勝つために自分の頭でいろいろ考えながら

プレーをするようになった。一番大きく変わったのはチーム内における役割で、高校時代の縁の下の力持ち的な役割（ディフェンスやリバウンド）から、一転して点（ゴール）をたくさん決めることを求められるようになった。その分試合に出る楽しさも増したが、体力的な負担や責任の重大さも増した。トップレベルの真剣勝負からは一歩身を引いた環境ではあったが、部活時代とはまた違ったバスケの奥深さに触れることができた。

☆走れる間は現役で

大学を卒業して数年が経った今では、かつての仲間もほとんどバスケを辞めてしまった。私はといえば大学時代の友人の好意で恵比寿にあるチームを紹介してもらい、その一員として週1程度でバスケをたしなんでいる。我ながらよく飽きないものだと思うが、かれこれ15年以上の競技生活を経た今でも、日々新しい発見がある。例えば最近では、この激しいスポーツを1日でも長く楽しむために、体のケア（ストレッチや食事など）について特に気を遣うようになった。また、日に日に衰える体力やスピードを補うために、より頭を使い、相手との駆け引きや読みの上手で勝負することを心がけるようになった。

バスケの一番の魅力は、真剣勝負の相手がい、その相手に勝つために全身全霊をかけて挑んでいくというところにあると思う。相手が強ければ強いほど勝利した時の喜びは大きく。その喜びは普段の生活や仕事で得られるものとはまた一味違ったものである。これからも、走ることができる間は現役を続けてみようと思う。

☆終わりに

バスケというスポーツは、日本では野球やサッカーに比べてマイナースポーツである。けれど先日、とある研修でバスケのインターハイ出場経験者に会って、ひょっとしたら弁理士の中にもバスケ経験者は意外といるのかもしれないと感じ、この記事を書いてみようと思い立った。私の場合は幸運にも、負けず嫌いでも頼りになる仲間に恵まれてここまでバスケを続けることができた。もしまだ現役を続けている方がいらっしゃったら、是非ご一報をお待ちしております。



サンティアゴ巡礼路とその体験記

出口 隆 弘 (無名会)

1. サンティアゴ巡礼とは

サンティアゴ巡礼路 (El Camino de Santiago) とは、キリストの12使徒の一人である聖ヤコブが祀られた、スペインのガリシア地方にあるサンティアゴ・デ・コンポステーラ (Santiago de Compostela、以下、サンティアゴと称す) へ至る道のことです。現在でも世界中から多くの巡礼者がサンティアゴを目指し、重い荷物を背負って歩いています。中世の昔はクリスチャンが聖ヤコブを通じて救いを求める、または罪を償うことを目的として歩いたそうです。しかし、現在ではそのような宗教的な目的は希薄で、スポーツや文化体験の一環として行う者がほとんどのようです。

2. 私のサンティアゴ巡礼のきっかけ

私の前職は大学の非常勤講師であり、当時 (2003年初頭) は弁理士試験の勉強を始めたころでした。きっかけとなったのは、あるテレビ番組でフランスの巡礼路を巡礼者が歩くシーンが目にとまったときでした。もちろん巡礼路の存在は前から知ってはいました。電車やバスで町々を行き来できる時代に何をバカなことをやっているのか、とそれまでは思っていました。しかしその映像を見た瞬間に何故かわかりませんが「あ、これだ」と、今の自分に必要なのはこれしかないという強い衝動に駆られました。おそらく大学の道を捨てて弁理士の道へ行く不安と、試験勉強のストレスが原因だったのではと思います。以後、それをきっかけに資料集めや、歩く練習等を行い、巡礼に臨みました。

3. サンティアゴ巡礼のルート

サンティアゴに至る道はサンティアゴを中心として欧州全体に放射状に広がっており、最も多くの巡礼者が歩く道は、フランスのサンジャン・ピエ・ド・ポー (Saint Jean Pied de Port: S J P P) を出発してピレネーのイバニエタ峠を越え、パンプローナ、

ブルゴス、レオンを経由してサンティアゴに至る「カミーノフランセス」という道で、これで大体800kmほどあり、徒歩なら1ヶ月程度かかります。その他スペイン国内であれば、ビスケー湾沿いを歩く「北の道」、セビーリャから北上する「銀の道」等があります。

フランス国内では上述のカミーノフランセスに合流する「トゥールの道」、「ヴェズレーの道」、「ルビュイの道」、「アルルの道」等があります。ルートの詳細については、ホームページ (<http://www.chemins-compostelle.com/Leschemins/leschemins.html>: フランス語) 等を参照していただきたいと思います。

4. サンティアゴ巡礼路上の施設

スペイン国内の巡礼路にはサンティアゴへの道標となる黄色い矢印が数百mおきに道路、電信柱、家の壁等に書き込まれており、巡礼者はそれをたどっていけばサンティアゴに到達できるようになっております。また巡礼路上には5キロから10キロ程度おきに「アルベルゲ (Albergue)」と呼ばれる巡礼者専用の宿泊施設があり、公営のアルベルゲであれば数ユーロ程度のお布施をするだけで宿泊することができます。なお、アルベルゲは基本的に予約ができませんので、夏のように巡礼者の多い季節ではベッドの争奪戦 (早いもの勝ち) となります。ベッドを確保できなかったものは次の町に行くか、床にマットを敷いて寝る、またはテントを持参してきた者は外で寝ることになります。

フランス側も赤と白のストライプで巡礼路を示す表示はありますが、スペイン側に比べて道を間違いないです。またフランス側にも「ジット (Le Gite d'etape)」と呼ばれるハイカー専用の宿があり、通常のホテルよりも安く宿泊することができます。こちらは予約が可能です。そして、フランス側、スペイン側も、宿以外にバーや水のみ場が数キロおきに

あるので、水を補給したり休憩することもできます。

5. 巡礼者の条件

巡礼者はクリスチャンであることは条件にはなっておらず、異教徒、無宗教であっても問題ないとされており。一方、巡礼者は「クレデンシャル (Credencial)」と呼ばれる巡礼手帳 (スタンプブック) を所持し、町々でスタンプと日付を記録することが義務となっております。これがないと「アルベルゲ」に宿泊することはできません。そして、徒歩で100キロ以上、自転車で200キロ以上踏破してサンティアゴに到着した巡礼者は、巡礼事務所で「巡礼証明書 (Compostela)」を発行してもらえますが、その際に上述のクレデンシャルが必要となります。なお、日にもよりますが、サンティアゴのカテドラル (Cathedral) では、巨大な香炉を振り子のように振り回し、到着した巡礼者を祝福する「ボタフメイロ (Botafumeiro)」という儀式を見ることができます。

6. 装備

40～50リットル程度のバックパックに衣類、洗面用具、貴重品等を入れるのですが、水や食料を積んで10kgを超えないように、なるべく余計なものは省くようにしました。靴は、履き慣れたものであれば特に制限はないと思いますが、足への衝撃を抑えるため、ある程度厚底のハイキング用の靴で歩きました。さらに靴下もクッション性の高いウール製のもの2重に履いておりました。杖は、上り坂のみならず、ひざへの衝撃を抑えたり、野犬を追い払うのに役に立ちます。あと日射病対策の帽子は必要で、その他サングラス、日焼け止め等も必要となります。

7. 一日の行程

毎日平均30km程度歩くのですが、一日のスケジュールは大体決まった形になります。夏の場合は、朝5時に起床して朝食をとり、荷物をまとめます。そして5～6時くらい (まだ太陽は出ていない) に宿を出発し、午後の暑い日差しを避けるため午前中かお昼くらいまでに次の町に到着し、宿が開くのを待ちます。宿が開いたら「クレデンシャル」にスタンプを押してもらい、ベッドを確保します。もちろん宿代の支払い、またはお布施もその際に済ませます。そしてシャワーを浴び、衣服を洗濯し、昼食 (アルベルゲやジットでは自炊可能なところが多い) を

とり、昼寝をし、夕方起きたら街中を散策等して時間をつぶし、夜になったら夕食をとり10時くらいに就寝となります。

一方の冬の場合は、巡礼者もそれほど多くはないのでベッドの争奪戦はなく、日差しも弱いので朝遅く出発し日中ゆっくりと歩くことができます。冬とはいえ、歩き始めると体が熱くなり、汗をかくこととなります。しかし、途中で休憩をすると濡れた体で凍えてしまうので、バーやレストランなど、暖の取れるところ以外での休憩はできません。さらに宿でシャワーを浴びたあとは寒くて外には出られないので、外での用事をすべて済ませた後でなければ浴びることはできません。おまけに洗濯物は洗ってもなかなか乾かないので、衣類を、洗濯しない歩き用と、きれいな状態の就寝用と、に分ける必要があります。

8. 私の過去の巡礼

1回目の巡礼 (2003年夏) は、ルピエイからスタートし、「ルピエイの道」、「カミーノフランセス」を通ってサンティアゴを経由してさらに西に進み、大西洋岸のフィニステラまでの行程約1570kmを約2ヶ月かけて歩きました。2回目の巡礼 (2005年夏) はアルルからスタートし「アルルの道」、「カミーノフランセス」を通ってサンティアゴまでの行程約1530kmを約2ヶ月かけて歩きました。3回目の巡礼 (2007年初頭) は、ヴェズレーからスタートし「ヴェズレーの道」を通り、「カミーノフランセス」上のプエンテ・ラ・レイナまでの行程約1000kmを1ヶ月強かけて歩きましたが、S J P Pに到達するまで (約1ヶ月) 他の巡礼者に全く会うことのない孤独な巡礼でした。なおいずれの巡礼も前職である大学の非常勤講師のときに行いました。

9. 今年 (2009年) の巡礼

私は2007年4月から弁理士として勤務させていただいておりますが、それでも巡礼熱は収まっていないようです。そこで、事務所内及びクライアントとのやり取りを調整しつつ、GW1週間前とGWのトータル2週間の休みをいただき、2年ぶりの巡礼を行ってきました。今回の目標は、パリから「トゥールの道」を通りS J P Pを経由せずバイヨンヌに抜け、そのまま「北の道」を経由してサンティア

ゴまで行く行程を「区切りうち」で踏破することで。その一貫で今年は、パリからトゥールまでの約280kmを10日かけて歩いてきました。毎年このような休みが取れたとして、サンティアゴに到着するのは8年後になりそうです。また今年、日本国内でも「クレデンシャル」が発行されたので、それを持参して巡礼に臨みました。

一応、4月といえば、フランスでも春とのことですが、太陽が出ない日はかなり寒く感じました。1日目の早朝、出発地であるパリのノートルダム寺院に赴き、寺院関係者に自分が巡礼者であることを伝えると、観光客は入ることのできない別室に連れて行かれ、そこでレリーフ状のスタンプをいただきました。そして、ノートルダム寺院のあるシテ島を離れ、サンジャック通りを南下し、オルレアン門を抜けるとパリとはお別れです。さらに郊外の市街地を抜けると、当たり一面菜の花で黄色く染まった風景が広がり、しばし見とれておりました。5日目にジャンヌダルク緑のオルレアン (Orleans) に到着し、メールで実家や事務所に生存報告をしました。オルレアン以降は古城のあるロワール (Loire) 川沿いを歩き、7日目にブロワ (Blois) 城、8日目にショーモン・シュール・ロワール (Chaumont sur Loire) 城、9日目にアンボワーズ (Amboise) 城を訪れました。そして10日目にトゥールに到着し、今回の巡礼を終えました。今回の巡礼では、6日目に泊まったボージャンシー (Beaugency) という町がお気に入りとなりました。ここは、川沿いにあり、昔の教会や修道院がありながら観光地化されていなかったからです。今回のルート上にはジットはないのですべてホテル泊まりでした。また8日目、9日目はフランス国内の連休で現地では宿が取れなかったため、歩いたのち電車でトゥールまで行って宿を取り、次の日電車で戻って続きを歩きました。巡礼後は、残りの日程を用いて巡礼仲間のところに遊びに行きました。来年はトゥールから続きを歩くことになると思います。

10. サンティアゴ巡礼の良さ

これほど交通の発達した時代にわざわざ歩くわけですから、始めは歩くことに対する疑問がふつふつと出てきます、さらに自分の人生を振りかえったり

もします。しかし、歩いていくうちにそのような雑念は消え、歩くことに対して喜びを覚えるようになります。

また、巡礼路上の風景は、歩いた疲れが吹っ飛ばすほどに美しいです。そして、建物の様式等が歩くたびに少しずつ変わっていく様子が興味深いです。

その土地ごとのお酒や料理にありつけるのも本当に楽しみです。さらに、保証はしませんが、歩いているので、食べても飲んでも太ることはありません。

振り返ってみると、フランス側のルートは道が険しいため、歩くことそのものが重要ですが、スペイン側は歩く人が本当に多いため、歩くことよりも他の巡礼者とのコミュニケーションが重要であると感じました。語学は得意ではありませんが、巡礼者が考えそうなことは現地の人も他の巡礼者も理解しているようなので、意思疎通はそれほど苦労しませんでした。また世界中から多くの巡礼者がやってきましたが、他の巡礼者も一日で大体同じ距離を歩くことになるので、巡礼者同士打ち溶け合ってグループが自然に形成されます。そして彼らとのコミュニケーションを通じて語学力を試すことができます。私はこれらの巡礼でスペイン語をある程度覚ええました。そして巡礼で知り合った者とは巡礼終了後も、情報交換を行ったり、実際に会いに行ったりし、これらが自分にとってお金に替えられない財産となっております。

11. 最後に

巡礼は人生に例えられることが多いですが、私もそう思います。私の場合は弁理士としての人生のなかに、巡礼という仮想的な人生を組み込み、メタボにならないようにしたいと思います (笑)。最近ではサンティアゴ巡礼を行う日本人も増えてきました。私は「日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会」の会員となり、会のイベントに参加して、巡礼者同士の情報交換をするだけでなく、新たに巡礼を行う方々に微力ながら自分の経験を踏まえたアドバイスなどをさせていただいております。前述のクレデンシャルの発行もこちらの会で行っております。興味のある方はホームページ (<http://camino-de-santiago.jp/>) をご覧になっていただきたいと思います。

以上